

平成24年度 校内研修計画

1 研究主題

言葉の力を高め、主体的に学ぶ子どもの育成
～物語文・説明文の授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

(1) 教育目標から

当校の教育目標は「考える 助け合う やりぬく」である。そして、知育面での重点目標を「自分の考えをもち、進んで表現する子」と設定している。自分の考えをもち、進んで表現するためには、課題や相手の意図を的確に読み取ったり聞き取ったりする力、自分の考えを整理し、相手を意識して分かりやすく表現する力が必要である。これらの力はすなわち「言葉の力」を意味するものであり、教育目標を具現化するためには、児童の言葉の力を高め、主体的に学ぶ児童の育成が必要である。

(2) 児童の実態から

明るく素直な児童が多く、のびのびと学校生活を送っている。言われたことには取り組むものの、学習に対しては受け身になりがちな児童が多く、自分の考えや意見をもち、自分の課題として取り組もうとする意識が弱い。NRT学力調査の結果は、全校平均は51.4と全国平均を上回ったが、領域で見ると「聞く・話す」「読むこと」が全国比100を下回った学年が3学年あった。国語の授業づくりを通して児童自ら課題意識をもち、主体的に学ぶ児童を育てていくことが学力向上のために重要である。

(3) 昨年度の研究の成果と課題から

昨年度当校では、国語科における表現活動を通して言葉の力を高め、主体的に学ぶ子どもの育成を目指して研究を行った。説明的文章単元の教材で学んだ基本となる型を使って表現する活動を繰り返し行うことで、児童に思考と表現の型をしっかりと身に付けさせたいと考えたからである。ところが、実践を重ねていくうちに単元を貫く目標（ゴール）を明確に提示して学習を行うことが児童の表現する力だけではなく、教材を読み取る力も高めることが単元テストの結果や児童の学習に取り組む姿から分かってきた。それは、「何のためにこの教材を学ぶのか」ということが明確になったために児童の目的意識が高まり、教材から学ぼうと文中の言葉や筆者の表現や伝え方に、今まで以上に注目して教材を読むようになったからである。

しかし、全ての説明的文章単元において児童にとって意味のある（伝えたい、知らせたいという思いが高まる内容）ゴールを設定することが難しかったこと、書く活動のみをゴールとすることが、時数を考えるとやや無理があったことなどの課題も見られた。

そこで、本年度は、昨年度成果の見られた実践を継続しつつ、児童の『言葉の力』を更に高め、主体的に学ぶ児童を育てるためには、どのような指導が効果的であるかを、文学的文章単元においても研究していきたいと考え主題を設定した。

学んだ型を用いて表現する活動を通して「書く力」を、目的意識をもって教材文を読み取る活動を通して「読む力」を伸ばし、『言葉の力』を昨年度以上に高めていきたい。

*言葉の力とは、明確な目的達成のために、相手に応じて適切に「話す・聞く」「読む」「書く」ことができる力。

3 研究仮説と目指す子どもの姿

(1) 研究仮説

次のような手立てで国語科の授業改善を行えば、児童の言葉の力が高まり、主体的に学ぶ児童を育成することができる。

- ・ 単元を通してどのような言葉の力を高め、どのような表現活動を行うのかを明確にする。
- ・ 説明的文章単元において学んだ思考と表現の型を用いて、自分の思いや考えを文に表す活動を行う。
- ・ 文学的な文章単元において、作者の叙述の工夫を読み取り、自分の表現に生かす活動を行う。

(2) 目指す子どもの姿

上記の研究仮説を踏まえ、次のように目指す子どもの姿を設定する。

低学年	目的意識をもって教材から学び、自分の思いや考えを表現することができる。
中学年	目的意識をもって教材から学び、自分の思いや考えを適切に表現することができる。
高学年	目的意識をもって教材から学び、自分の思いや考えを効果的に表現することができる。

4 研究の内容

(1) 国語科における授業づくり

- ①単元を通してつけたい言葉の力を明確にする。
- ②単元を貫く目標（ゴール）を明確に提示して学習を進める。
- ③児童が主体的に学ぶための単元計画（指導計画）を工夫する。
- ④教材で学んだことを生かした表現活動を設定する。
- ⑤児童の学習意欲を高める表現活動例の実践を蓄積し、多様な活動が組めるようにする。

説明的文章単元においては、教材文を通して学び、学んだ型を使って表現活動を行う。明確で児童にとって意味のある表現活動と学習の流れを児童に提示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。

さらに文学的な文章単元においては、作者の叙述の工夫を教材文から学び、学んだことを生かして表現する活動を意図的に行い、表現の幅を広げると共に、読み取る力を高める工夫を行っていく。

(2) 言葉の力を育てる日常的な取組の推進

①言葉への関心を高める言語環境の充実

「ことのは通り」の詩の暗唱と学年発表（または交流会）

②全ての教科の授業における書く活動を充実（ノート指導を含む）させ、自分の考えや思いを文に書き表す力を育む。

* 毎時間めあてと振り返りを書かせる。

* めあてとは、活動内容ではなく、学習目標のことを言う。

③燕長善タイムを活用した語彙を広げ、言葉の力を高める取組。

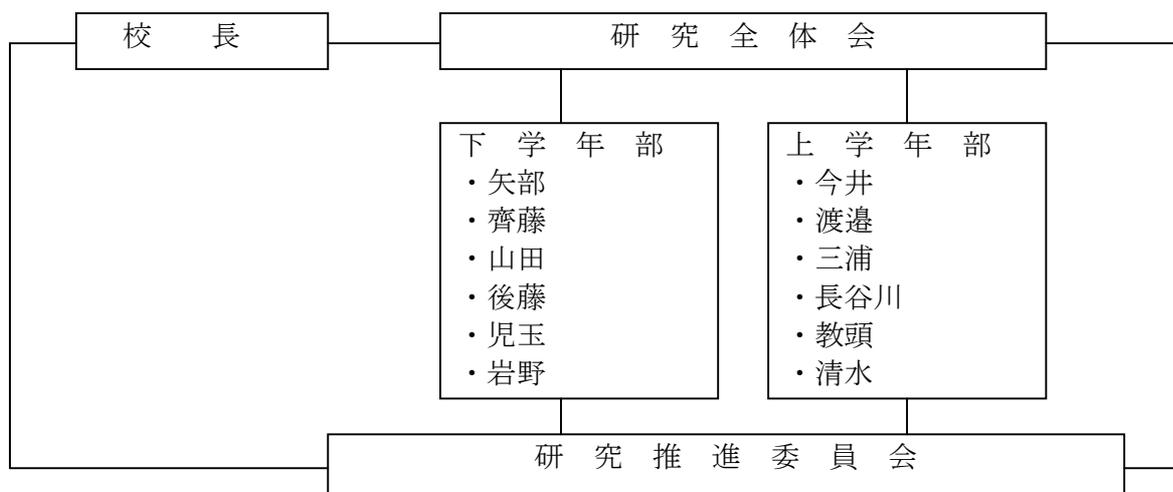
* 感情を表す言葉、季節を感じる言葉を集めたり、その言葉を使った文章を書く等の活動

5 研究方法

授業実践を通しながら、研究仮説の検証を進める。

- ・授業公開は、1単元につき2回（習得場面と学習したことを生かした表現活動の場面）を行い、そのどちらかを全員で参観し、協議を行う。どちらの授業を全員で参観協議するかは、授業者が決定する。校長と研究主任は2回とも参加し、指導助言を行う。教頭か教務主任が、研究主任の学級に入教する。
- ・指導案検討の1回目を指導案提出の1か月前までに学年部で行い、2回目は2週間前までに全職員で実施する。
- ・全授業について指導者、新潟大学准教授 足立幸子先生に来校していただき、指導・助言をいただく。
- ・授業者は、授業前日までに指導案・協議の視点・資料を配布する。
授業者より示された協議の視点をもとに、授業参観し、事後の協議会では、その視点をもとに協議を進める。次回の授業公開は、前回の実践を通して、確認された成果と課題を踏まえながら、授業の展開を組み立てていく。
- ・研究授業実施後は、その授業の成果と課題をまとめ、年度末には、実践記録としてまとめる。
- ・特別支援学級については、研修計画を踏まえて作成した個々の指導計画に基づき、授業公開をする。2学級同時公開ではなく、1学級ずつ公開する。

6 研究の組織



7 校内研修年間計画

月	公開授業予定	研修計画
4		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研修計画立案（研究推進委員会） ・「学習のやくそく」の配布と指導 ・長善タイムの内容を提示し共通理解を図る。 ・全校漢字・計算テスト実施計画の立案と実施 ・家庭学習の手引配布 ・NRTの実施（2～6年生） ・研究全体会（研修計画） ・「よみの達人」の作成・配布

5	2学年研究授業（5／30）	<ul style="list-style-type: none"> ・単元名「お話のさくしゃになろう」 ＊足立先生より1回目のご指導
6	3・6学年研究授業指導案検討	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区計画訪問時公開授業指導案検討（部会・全体） ＊6／19（火）足立先生よりご指導
7	7月18日（水） 中学校区計画訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・NRT結果分析と今後の取組のまとめ ・中学校区計画訪問公開授業 3学年公開授業 単元名「お話の登場人物を紹介しよう」 6学年公開授業 単元名「佐渡の体験を通して自分の考えを伝えよう」 ＊足立先生も授業参観。後日ご指導。
8	5学年指導案検討（8／7） 学力向上校内研修	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業指導案検討（部会） ・研究中間検討会、各学年の実践報告会 ＊足立先生よりご指導
9	5学年研究授業（9／25）	<ul style="list-style-type: none"> ・5学年研究授業 単元名「作品を自分なりにとらえ、朗読しよう」（大造じいさんとガン） ＊足立先生よりご指導
10	1・4学年研究授業指導案検討（10／3）	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導研究会公開授業指導案検討（部会・全体会） ＊足立先生よりご指導
11	11月7日（水） 学習指導研修発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業 1学年公開授業 単元名「じどう車くらべ」 4学年公開授業 単元名「三つのお願い」 指導者 新潟大学准教授 足立幸子先生 中越教育事務所 赤澤指導主事
12		<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級2組公開授業
1		<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級1組公開授業
2		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度へ向けての計画・立案 ・NRT結果分析をもとに進めた取組の反省
3		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研修の反省とまとめ作成

今年度の研修の成果と課題

1 研修の成果について

本年度は、「言葉の力を高め、主体的に学ぶ子どもの育成」の研究主題のもと研究に取り組み2年目となる。副題を～物語文・説明文の授業づくりを通して～とし、研究教科を国語として研究を進めてきた。昨年度の研究内容であった説明的文章単元に加え、今年度は文学的文章単元においても取り組むこととし、次のような点について検証を進めてきた。

- ① 単元を通してどのような言葉の力を高め、どのような表現活動を行うのかを明確にする。
- ② 説明的文章単元において学んだ思考と表現の型を用いて、自分の思いや考えを文に表す活動を行う。
- ③ 文学的文章単元において、作者の叙述の工夫を読み取り、自分の表現に生かす活動を行う。

また、本年度は燕市教育委員会・新潟大学教育学部の学力向上パートナーシップ事業により、新潟大学教育学部准教授 足立 幸子先生からご指導をいただき、研修を進めてきた。

授業研究を中心とした本年度の実践の結果、上記の3点について次のような成果を得ることができた。

- ① 単元を通してどのような言葉の力を高め、どのような表現活動を行うのかを明確にすることについて

単元を貫く目標（ゴール）を提示し、学習を行ったことで、教材に向かう児童の意欲が高まることを本年度の実践でも確信できた。ゴールを示すことで、「何を学ぶのか」「どう生かすのか」が分かり、教材から自分の表現に生かすための何かを学び取ろうと集中して取り組むことができた。

さらに、単元を通して身に付けさせたい言葉の力とゴールを明確にすることにより、指導者である私たちも単元全体の流れをより具体的にイメージし、授業に臨むことができた。児童の実態に応じたゴールの設定や指導計画を立てることより、分かる授業の実現につながったと考える。

- ② 説明的文章単元において学んだ思考と表現の型を用いて、自分の思いや考えを文に表す活動を行うことについて

教材文から学んだ型を用いて文を書く活動は、自分の考えをどのように書いたらいいのか分からない児童にとって有効であった。①でも述べたように、教材から何を学ばせるのかを指導者が明確にすることにより指導事項を絞って指導することができた。それは、児童も何を学んでいるのかを理解しやすいことにつながり、表現活動を行う際に、どの学んだ型を使

って表現すれば良いのか理解して取り組める児童が多かった。また、表現活動を行う際、児童は必ず教材文にもどって、学んだことを振り返ったり、何度も読み返したりして文章を完成させていた。学んだことを用いて表現活動を行うことは、児童にとって、学んだことをどれくらい理解できているのかを確認したり、復習したりする良い機会となっていた。また、表現活動の設定をすることは、指導者にとっても児童がどのくらい理解しているのかを見取ることができる機会となっていた。

③ 文学的な文章単元において、作者の叙述の工夫を読み取り、自分の表現に生かす活動を行うことについて

2, 3, 4, 5年生において文学的文章単元の研究授業を行った。説明的文章単元では、ゴールの設定の大半が「学んだ型を使って書く活動」であったのに対し、文学的文章単元は、ゴールとなる活動にどのような活動を設定すると、児童の意欲、言葉の力を向上させることができるのかが大きな課題であった。が、そこを教師が教材研究を重ねることで、教材の特性と児童の実態を生かしたゴールの活動を設定することができた。教材から学んだ表現方法を使って「お話作り」や、心情を読み取らせたい教材では「音読劇」、場面の変化や話の山場となる部分を切り取って紹介する「紙芝居づくり」、物語の構成を生かした「物語づくり」など多様な表現活動を行うことができた。ゴールとなる活動（アウトプット）を教師が想定しながら、そのために意識して「何を学ばせるか」（インプット）の学習を充実させていくことが大切であると感じた。

また、足立 幸子先生からは学習で学んだ「理解語彙」が「使用語彙」になるにはタイムラグが必要であり、インプットしたことがすぐにできない、直結していないからといって間違いではない。というご指導もいただいた。学んだ表現方法や型をその時には上手に活用できなかったとしても、繰り返し学び、活用する場を設定していくことで児童の言葉の力の向上につながっていくと考える。

2 今後の課題について

本年度の研究により、ゴールの設定と学習の流れを児童に提示することが、「言葉の力を高め、主体的に学ぶ子どもを育成する」ために有効に働くということが立証された。しかし、単元の設定されている時期や教材文の内容によっては、児童が「伝えたい、知らせたい、表現したい」と思うような意味のあるゴールを設定しにくい単元もあった。年間の活動計画と照らし合わせながら、指導計画を立てていく必要がある。また、表現活動を設定することで時数確保の面で難しい実態があった。単元を絞って効果的に指導することも考えていかなければならない。

また、指導した型をしっかりと身に付け、使いこなせるようにするためには、型を用いて表現することを繰り返し、且つ場面を変えて行うことが必要である。つまり、活用する場・時間の確保が必要だということである。国語で学んだことを他教科や活動にどのように生かしていくか、国語の時間に学んだことをしっかりと身に付けさせるための活動をどのように取り入れていくのかということが今後の課題といえる。

今年度は、説明的文章単元・文学的文章単元における国語科の授業づくりを中心に研究に取り組んできた。今年度の成果を受け、効果的であった指導法、また研究授業で実践された単元については、来年度も継続して行い、更に児童の言葉の力を高めるにはどのような指導が必要なのかを今後追究していきたいと考える。また、国語で学んだ表現力を他教科にも生かすことができないか研究を進めていく。

1 単元名 じどう車ずかんをつくろう（「じどう車くらべ」 光村図書）

2 単元を通して身に付けさせたい言葉の力

- 「問い」の文を見つけ、その「答え」となる文を探しながら説明的文章を読み、内容を読み取ることができる力。（「読むこと」（1）イ・エ・オ）
- 教材文を参考にして簡単な組み立てを考えながら、地域を走る自動車の仕事と作りを説明する文を書くことができる力。（「書くこと」（1）イ・ウ・オ）

3 指導の構想

(1) 児童の実態（男子11名、女子10名、計21名）

本学級の児童は読書が好きで図書館から本を借りて読んだり、毎週の読み聞かせの時間にお話を聞いたりすることをとても楽しみにしている。音読が好きな児童が多く、家庭学習として毎日取り組み、教材文を暗唱できる児童も少なくない。

しかし、自分の考えを発表することについては得意な児童もいるが、うまく伝えられず苦手と感じている児童もいる。そのため、朝のスピーチタイムの発表、1日一発言など、みんなの前で話す機会を多く設けるようにした。その結果、少しずつではあるが、発表することに抵抗がなくなってきた。

児童はこれまでに、「はなのみち」では「だれがどうした」ということに気を付け、語句や文のまとまりを捉える学習をした。また、「おむすびころりん」や「おおきなかぶ」「ゆうだち」では、場面の様子を想像して読む学習をしてきた。視写や音読などの学習活動から児童は、語句や文のまとまりを捉えられるようになり、主述に気を付けて読めるようになってきている。

(2) 教材について

本教材「じどう車くらべ」は、この時期の児童の興味・関心の一つである自動車を取り上げた説明文である。これまで学習した「くちばし」での「問い+答え」の基本パターンを踏まえ、「みいつけた」と同様「問い+答え+答え+答え」という列挙型の構成になっている説明文である。「どんな仕事をしていますか」、そのために「どんなつくりになっていますか」というように、問いが二つあるため、二つの段落に分けて書かれている明確な構成となっている。「しごと」と「つくり」を分けて書き抜いて整理することで、二つの関係性をいっそうはっきりと理解することができると思われる。

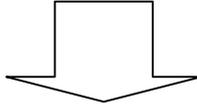
学習活動では、教科書に出てくる一つ一つの自動車について毎時間、授業のまとめの際に、図鑑の一枚となるカードを作る活動を取り入れる。そして、自分の住む地域にある自動車について調べたカードと合わせ、一人一人の自動車図鑑を完成させる。図鑑に載せる文章を書くためにこの学習を通して、「しごと」や「つくり」に着目したり、「そのために」という言葉に着目したりしながら、一つ一つの自動車の違いを読み取らせたい。

本教材は文章理解の助けになるように挿絵が大きく掲載されていて、意欲的に学習できるように工夫されている。また、身近なバス、乗用車から始まり、トラック、クレーン車と同じ文章構成で繰り返し説明されているので文章表現の内容やパターンが理解しやすくなっている。相手意識、目的意識を明確にし、説明文から読み取った事柄を生かした表現活動（図鑑づくり）を行うことで確かな言語能力を身に付けさせたい。

(3) 単元の展開
研究主題

言葉の力を高め、主体的に学ぶ子どもの育成
～物語文・説明文の授業づくりを通して～

研究仮説



次のような手立てで国語科の授業改善を行えば、児童の言葉の力が高まり、主体的に学ぶ児童を育成することができる。

- ・単元を通してどのような言葉の力を高め、どのような表現活動を行うかを明確にする。
- ・説明的文章単元において学んだ思考と表現の型を用いて、自分の思いや考えを文に表す活動を行う。
- ・文学的な文章単元において、作者の叙述の工夫を読み取り、自分の表現に生かす活動を行う。

低学年：目的意識をもって教材から学び、自分の思いや考えなどを表現することができる。

を受けて、本単元を次のように展開する。

この単元のゴールとなる表現活動を「じどう車ずかんを作って、保育園のみんなに教えてあげよう」とし、保育園の園児に栗生津地域にある自動車について教える活動を設定した。

「自分の調べたことを誰かに伝えたい」という意欲と目的意識をもたせたいと考えたとき、そのような気持ちになるのは自分たちよりも年下の園児ではないかと考えた。今までの学校生活の中で、保護者やクラスの友達に調べたことを伝える活動は何度か行っているが、自分たちよりも年下の子どもたちに、自分たちが先輩として教えてあげる経験はしていない。また、地域を走る自動車については、1年生の児童や保育園の園児でも見たことがある車であることから、教えてあげるものとして取り組み易いと考える。さらに、本単元で使用する教材文「じどう車くらべ」で学習した「しごと」とそのための「つくり」という説明文を書くためにも適した課題であると考えた。

本単元では、「じどう車ずかんを作って保育園のみんなに地域にあるじどう車について教えてあげよう」という活動をゴールに設定することで、子どもたちが説明文の型を学んだり、地域にある自動車についての説明を書いたりする活動に意欲的に取り組めるのではないかと考える。

そこで、導入では学習のゴールが「じどう車ずかんを作って保育園のみんなに地域にあるじどう車について教えてあげよう」であることを子どもたちに伝え、活動の見通しをもたせる。

次に、教材文「じどう車くらべ」を読み取る活動を通して、次のような型を学ばせることとした。

たい。

○説明文には、小さなまとまり（形式段落）と、大きなまとまり（意味段落）があること。（文章構成の型）

○説明文には「問いかけ」の文と「答え」の文があること。（文章構成の型）

○「しごと」「そのために」「つくり」というように書くことで、「物」の働きと形態を分かりやすく説明できること。（文章表現の型）

○「～ように、～があります。」「～のように、～がついています。」などのつくりを説明する文型があること。

次にこれまで学習してきたことを活かして、粟生津地域を走る自動車図鑑作りに取り組みさせる。地域を走る自動車調べ学習に入る前に一斉指導を通して、図鑑にするためにはどんな事柄を集めてこなければならないのか、今までの学習を想起させ、「しごと」とそのための「つくり」など、調べ学習のポイントをおさえる。粟生津地域の車としては、給食車、介護車、農作業に使う際の農耕車（コンバイン、トラクター田植機）、パトカー、消防団の車、郵便局の車、コンビニの車、広報車を予定している。

自分の調べてきた事柄をもとに、粟生津地域の自動車図鑑作りに入る。「しごと」に合った「つくり」が書けない児童には、整理してかけるワークシートを用意し、支援していく。また、自分の考えを確かめさせるために、書いた文章の「しごと」と「つくり」をペア学習で交流させる。

最後に、粟生津保育園の園児に完成した自動車図鑑を紹介しに行く。学習時に使用した拡大写真を活用しながら地域を走る自動車の紹介をさせる。

4 単元の指導計画（全14時間）

	過程	学習活動	指導上の留意点	評価基準と評価方法
第1次 1時間	見通しをもつ	○本文で学んだことを生かして、「粟生津地域にあるじどう車ずかんを作り、保育園の園児に教えてあげよう」という課題をもち、学習計画を立てる。 ○新出漢字や片仮名の練習をする。	・いろいろな自動車があることを紹介し、児童の興味・関心を引き出す。	・自動車について関心を持ち、学習の見通しをもとうとしている。（観察） ・新出漢字や片仮名をとめ、はね、はらい、書き順送りがなに注意して書いている。（ノート、観察）
第2次 6時間 教材		○「じどう車くらべ」の全文を読み、全体が大きく4つに分けられていることに気付く。 ・音読をし、意味の分からない言葉の意味を知る。 ・文章を大きく4つのまとまりに分ける。 ○文章のおおまかな構成をつかむ。 ・「はじめ」の部分に問いが2つ書いてあることに気付く。 ○バスや乗用車の「しごと」	・説明文は小さいまとまり（形式段落）、大きいまとまり（意味段落）に分けられることを指導する。 ・問いの部分の色分けして囲む。	・全体を4つのまとまりに分けることができる。（観察、発言）

<p>を通して型を学ぶ</p> <p>生活科3時間</p> <p>地域の車を調べる</p>	<p>と「つくり」を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いに対する答えをみつけ囲む。 ・バスや乗用車の図鑑を作る。 <p>○トラックの「しごと」と「つくり」を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いに対する答えをみつけ囲む。 ・トラックの図鑑を作る。 <p>○クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いに対する答えをみつけ囲む。 ・クレーン車の図鑑を作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【授業公開1】 ○はしご車の「しごと」と「つくり」を考え、はしご車の紹介文を書く。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・はしご車の「しごと」と「つくり」を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」に合う「つくり」をワークシートに書き説明文を完成させる。 ・はしご車の図鑑を作る。 <p>○自分が図鑑にしたい地域の自動車を調べに行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が図鑑にしたい自動車の「しごと」や「つくり」をみつけてくる。 ・自動車の絵やみつけたことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えとなる部分を囲む。 ・「そのために」という言葉に着目させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・答えとなる部分を囲む。 ・「そのために」という言葉に着目させる。 ・バスや乗用車を比べ、作りの違いは仕事の違いとつながっていることを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・答えとなる部分を囲む。 <ul style="list-style-type: none"> ・「～ように、～があります。」「～のように、～がついています。～のようになっています。」が書かれたワークシートを用意する。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時まで学習した自動車の「しごと」「つくり」をいつでも確認できるように教室に掲示しておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」と「つくり」について調べてくることを確認する。 ・「しごと」「つくり」に分けたワークシートを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取ることができる。(ワークシート) ・仕事に合う「つくり」になっていることに気付いている。(発言・ワークシート) ・トラックの「しごと」と「つくり」を読み取ることができる。(ワークシート) ・仕事に合う「つくり」になっていることに気付いている。(発言・ワークシート) ・クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取ることができる。(ワークシート) ・仕事に合う「つくり」になっていることに気付いている。(発言・ワークシート) ・はしご車の「しごと」に合う「つくり」をワークシートにまとめている。(ワークシート) ・「そのために」という言葉を使って、はしご車の説明文を書いている。(発言・ワークシート) ・図鑑にしたい自動車の「しごと」や「つくり」をみつけている。(ワークシート)
---	---	---	--

<p>第3次 2時間</p> <p>教材を生かして文章を書く</p>	<p>保育園の園児に説明する</p>	<p>○学習した文章構成や文型を使って「粟生津地域にある自動車」の説明文（図鑑）を書く。</p> <p>【授業公開2】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>図鑑にしたい自動車について、「しごと」にあった「つくり」を書くことができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の選んだ自動車の「しごと」と「つくり」をみつけて書く。 ・ペアで読み合い「しごと」に合った「つくり」になっているか確認する。 ・清書をする。 <p>○保育園の園児に説明をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけてきた「つくり」がその「しごと」に合うものなのか確認をさせる。 ・「しごと」「そのために」「つくり」の順で書くことを確認する。 ・いつでも振り返りができるように前時まで学習した自動車の「しごと」「つくり」を教室に掲示しておく。 ・自動車の写真入りのワークシートを用意しておく。また、拡大コピーした写真も掲示しておく。 ・ペアで読み合う場面では「しごと」に合った「つくり」について感想を言うよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」に合う「つくり」を記入している。（ワークシート） ・自分の選んだ車の「しごと」と「つくり」を「そのために」という言葉でつないで説明文を書いている。（ワークシート） ・保育園の児童に分かりやすく、自動車図鑑の説明をしている。（観察）
--	--------------------	--	---	---

【評価】

- ・（評価4）教材文を通して学んだ型を使って、自分の力で自動車を紹介する文をかんせいさせることができた。
- ・（評価3）教材文を通して学んだ型を使って、担任や友達のアドバイスを受けながら自動車を紹介する文を完成させることができた。
- ・（評価2）教材文を通して学んだ型を意識しながら、穴埋め式のワークシートを使って自動車を紹介する文を完成させることができた。
- ・（評価1）教材文を通して学んだ型を使って、何を書くか支援を受けながら、自動車を紹介する文を完成させることができた。

5 授業公開1 (7/9) 11月7日(水)

(1) ねらい

はしご車の「しごと」と「つくり」を説明する文章を書くことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	支援 (○) 留意点 (・) 評価基準 (●)
5分	<p>○前時の学習を想起する。</p> <p>○本時のめあてをノートに書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>はしご車の「しごと」と「つくり」を かんがえて、しょうかいするぶんをかん せいさせよう。</p> </div>	<p>・前時までの学習資料 (掲示物)</p> <p>・本時は絵からはしご車の「しごと」と「つくり」について考える学習であることを知らせる。</p> <p>・はしご車の「しごと」と「つくり」を確認できるように拡大コピーを提示する。</p>
35分	<p>○はしご車の「しごと」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はしご車はたかいところにいる人をたすけるしごとをするよ。 ・たかいところの火をけすしごともあるかな。 <p>○挿絵からはしご車の「つくり」をペアで考え、考えたものを黒板に貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ながくのびるはしごがある。 ・クレーン車とおなじように、じょうぶな足がついているよ。 ・いちばん上にかごみたいなのがあります。 <p>○「つくり」に合った「しごと」をワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かじのとき、たかいところにいる人をたすけるしごとをしています。そのために、ながいはしごがついています。 ・おおきなタイヤは、たすけるしごととはかんげいがないな。 <p>○自分の書いた紹介文をペアで読み合い、「しごと」と「つくり」が合っているか確認する。</p> <p>○紹介文を発表する。</p>	<p>・「つくり」は一枚のカードに一つずつ書くようにする。</p> <p>○なかなか「つくり」がみつけれないペアには、はしご車の部位に注目させるように支援する。</p>
5分	<p>○本時の振り返りをノートに書く。</p>	<p>○前時までの学習がわかるよう掲示しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」に合った「つくり」を考えさせ、「そのために」につながるよう支援し、文末表現にも触れてからワークシートに記入させる。 ・書けない児童には穴あきワークシートを用意し、支援しながら書かせるようにする。 ・ペアで読み合い、「しごと」と「つくり」が合っているか確認する。 <p>●「しごと」に合った「つくり」を書いている。(ワークシート)</p>

6 指導の実際

○前時まで児童はバスや乗用車、トラック、クレーン車について教材文に書かれている事柄をもとに、その自動車の「しごと」と「つくり」を教科書から見つけ、学習カードに書く活動をしてきた。

本時は挿絵や自分の知っていることをもとに、はしご車の「しごと」と「つくり」を考える学習であった。

(1) 公開授業1について

○はしご車の拡大コピーしたものを見せ、「はしご車のしごとはなんですか」の発問に、予想通り「高いところにいる人を助ける」「高いところの火を消す」という二つの答えが返ってきた。本来、はしご車は高いところで発生した火を消火するために働く自動車である。そして、その場所に取り残された人の救助活動も行うことから、この段階ではどちらも正解である。しかし、「高いところの火を消す」という意見に対して疑問をもった児童がいた。本や図鑑などで見たことがあっても、実際にはしご車を見たことがないであろう児童にとってはなかなかイメージがつかないのでなかったと思われる。もっと時間をかけてはしご車の拡大コピーを見せ、見つけたことを発表させるなどの時間をとればよかったと思う。

また、この場面で「しごと」を選ばせる必要は無かったと考える。次の活動の「つくり」が出たから、「つくり」に合った「しごと」を選択させればよかったと考える。



(2) 公開授業2について

○『ずかんにしたいじどう車の「しごと」と「つくり」をかこう』というめあてのもと学習を行った。同じ自動車を調べてきた同士がグループになっていたのも、安心感もあり意欲的に学習する姿が見られた。はしご車の学習後、三時間かけて文末表現の仕方、「しごと」に合う「つくり」の指導をしてきたのでスムーズに活動に入れるのでは、と期待していたが、書く活動では取材してきたことをそのまま書き文末表現ができていない児童がいた。また、取材してきた「つくり」にはばかり目がいき、「しごと」と「つくり」を照らし合わせて考えられる児童も少なかった。しかし、アドバイスタイムでは別のグループ同士で読み合い、文章表現の間違いを指摘し合う場面も見られた。そして、本時の最後にはどうにか全てのグループが紹介文を発表することができた。

言語力を高めるためにも繰り返しの指導が必要であると痛感した。



7 実践の成果と課題

(1) 実践を通しての成果

- ・学習の初めに『じどう車ずかんを作って、保育園のみんなに教えてきてあげよう』と設定したことは、子どもたちが目的意識をしっかりともち、意欲的に活動するのに有効であったと思われる。
- ・常に振り返りができるよう、教室脇に学習の足跡を残してきた。わからなくなったときに、掲示物を見て、確認をしながら文章を書いている姿が多く見られた。
- ・粟生津地域にあるじどう車を調べに行く活動では、どの児童も大変意欲的に取り組むことができた。

(2) 今後の課題

- ・「つくり」を考える活動はペア学習とした。ペアで考えた「つくり」を短冊に書き、黒板に貼るよう指示をした。ペアで考えることで一人ではなかなか考えが浮かばない児童も相手の考えや発表を聞きながら学習に参加できるという良さがある。児童は意欲的に取り組んでいたが、ともすると、ペアで考えるというよりどちらか一人で考えた意見が採り上げられてしまうということもある。低学年におけるペア学習は有効だと思われるが、ペアの組み方、支援の仕方などは今後の課題である。
- ・児童の多くは前時までの学習を通して、「しごと」と「つくり」をつなぐためには「そのために」という言葉が必要であることや、「つくり」の最後の部分は「～になっています」「～がついています」という言葉でなければ文がおかしくなる、ということを理解していた。しかし、実際に、「しごと」と「つくり」を書く活動ではスムーズに進めない児童が多くいた。読み取りから見つけることはできても書けないということは、まだ「しごと」と「つくり」がうまく繋がっていないということである。文章構成の中で着目させたい言葉に意識していたが、本時のような学習の中では手立ての一つとして、絵を描かせるなどし、「しごと」と「つくり」を根拠付けるような活動を取り入れるなどの手立てを講じるが必要であった。

- 1 単元名 お話のさくしゃになろう（「スイミー」「お話のさくしゃになろう」 光村図書）
- 2 単元を通して身に付けさせたい言葉の力
 - 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、作者の叙述の工夫を見つけることができる力。（「読むこと」(1)ウ）
 - 文章の中の大事な言葉や文を書き抜き、それをもとに感想を書くことができる力。（「読むこと」(1)エ・オ）
 - 「スイミー」で学んだ物語の構成や表現の工夫を使って、「はじめ・中・おわり」のまとまりのあるお話を書くことができる力。（「書くこと」(1)ア・イ・エ）

3 指導の構想

(1) 児童の実態（男子14名、女子8名 計22名）

昨年度から、毎朝10分間の朝読書の時間と、週に1時間図書室に行き本の貸し出し・返却と読み聞かせをする時間とをとり、読書を楽しんでいる姿が見られる。読み聞かせでは、昔話などの起承転結のはっきりした物語を好む児童が多く、「お話づくり」と聞いたとき、そのような物語をイメージする児童が多いと思われる。

書くことについては、昨年度から国語と算数の時間には毎時間振り返りを書いており、また、連絡帳にもほぼ毎日その日の出来事と感想を書いているので、思ったことなどはほとんどの児童がそれほど時間をかけずに書くことができる。ただし、お話づくりをするのは、本単元が初めてである。

読むことについての学習では、昨年度は、『くちばし』、『みいつけた』、『じどう車くらべ』、『どうぶつの赤ちゃん』の四つの説明的文章教材を用いて、学んだ思考と表現の型を用いて、自分の思いや考えを文に表す活動を行った。

教材文『じどう車くらべ』では、

- ・説明文には、小さなまとまり（形式段落）と、大きなまとまり（意味段落）があること（文章構成の型）
- ・説明文には「問いかけの文」と「答えの文」があること（文章構成の型）
- ・「しごと」―「そのために」―「つくり」というように書くことで、「物」のはたらきと形態を分かりやすく説明できること（文章表現の型）
- ・「～ように、～があります。」「～のように、～がついています。」などの、つくりを説明する文型。

を学習し、それを用いて、学校の特別教室について説明する文を書き、一日入学で新一年生に学校を案内して部屋の説明をする活動を行った。

さらに、教材文『どうぶつの赤ちゃん』で、二つの物を比べて書く書き方を学び、自分の家族の見た目やできることを、自分と比べて書いて紹介するという活動を行った。

このように、説明的文章単元においては、教材文で学んだ型を使って書くという活動を繰り返すことによって、児童は、見通しをもって学習に取り組めるようになってきており、書き方を学ぶために教材文をよく読もうとする姿が見られるようになってきている。

一方、文学的文章単元においては、昨年度は、説明的文章単元のようにゴールを設定して教材文を読むという活動は行ってこなかった。2年生になってから、『ふきのとう』で「音読劇をして、家の人に見てもらおう」というゴールを設定して、教材文の読み取りを行った。音読の練習をしていく中で、「これはだれが言った台詞なのか」という疑問が児童の中に生まれ、その疑問を解決するために教材文を読み直し、意見を交換する児童の姿が見られた。

(2) 教材について

本単元で使用する教材「スイミー」は、スイミーという魚が主人公である。今までの教科書教材では、主人公に名前がついた作品を学習したことがない。ここで初めての経験となる。主人公の行動や会話に沿って、読み進めることで物語の展開を無理なく理解できる作品であり、児童にとっては、主人公と自分を重ねて読みやすい作品である。

主人公のスイミーは、小さな魚たちの中で少し特異な存在である。みんなが赤いのに、

一匹だけ真っ黒というところや、泳ぐのがだれよりも速いというところから強い存在にさえ見える。しかし、スイミーも他の魚たちと同じように、寂しい、悲しい気持ちをもっている。このことが児童にとって、スイミーを身近な存在として受け入れやすいものになっている。また、スイミーに共感し、知恵と力を集めて今までの生活から脱しようとしている小さな魚たちにも、児童は応援のまなざしを向ける。困難を乗り越えて、それを知恵と勇気で自分の生き方に生かしていこうとするスイミーの姿に、大人も子どももひかれる物語である。

全体は、五つの場面から構成されている。初めに主人公の紹介があり、事件が起こり、問題を解決してハッピーエンドで終わるという構成になっている。

- 第一場面（P 4 6） スイミーの紹介
- 第二場面（P 4 8） マグロに兄弟を奪われ、独りぼっちになったスイミー
- 第三場面（P 4 9～5 1） すばらしい海の世界で元気を取り戻していくスイミー
- 第四場面（P 5 2～5 4） 新しい魚の兄弟を見つけ、知恵を絞るスイミー
- 第五場面（P 5 5） 大きな魚を追い出したスイミーたち。

大きく三つに分けると、第一場面が「はじめ」、第二から第四場面が「中」、第五場面が「おわり」になる

みんなが読みたくなるお話を書くために、作者の叙述の工夫を読み取るという目的意識をもって、この教材を読み、魅力的な主人公の人物設定、主人公の人物設定を生かした物語の展開、起承転結の構成、比喩や体言止めや倒置を使った表現の工夫などに気付かせていきたい。

(3) 単元の展開

研究主題

言葉の力を高め、主体的に学ぶ子どもの育成
～物語文・説明文の授業作りを通して～

研究仮説

次のような手立てで国語科の授業改善を行えば、児童の言葉の力が高まり、主体的に学ぶ児童を育成することができる。

- ・単元を通してどのような言葉の力を高め、どのような表現活動を行うかを明確にする。
- ・説明的文章単元において学んだ思考と表現の型を用いて、自分の思いや考えを文に表す活動を行う。
- ・文学的な文章単元においては、作者の叙述の工夫を読み取り、自分の表現に生かす活動を行う。

を受けて、本単元を次のように展開する。

まず、この単元のゴールになる表現活動を「お話の作者になって、みんなが読みたくなるお話を書いて本にして、図書室に置こう」とし、全校の児童に読んでもらう物語を書く活動を設定した。

児童は昨年度、教材文「じどう車くらべ」から学んだ型を使い、学校の特別教室についての説明文を書き、一日入学で新1年生と一緒に学校探検をして特別教室の説明をする、という活動を経験している。また、保護者やクラスの友達に調べたことなどを伝えたり、発表したりする活動も何度か行っている。しかし、上学年の児童に自分たちの学習の成果を見せてもらうという活動は、音楽朝会の発表などしか行っていない。一方、昨年度の2年生が作って図書室に置いた、「野菜のひみつ」や「手作りおもちゃを作ろう」などの本は図書室で目にしたり借りたりしており、「2年生になったら、自分たちも本を作りたい」と考えている児童が多い。

そのため、本単元では、「みんなが作ったお話をまとめて本にし、図書室に置いてもらって全校のみんなに読んでもらおう」というゴールを設定することで、児童が物語から作者の叙述の工夫を読み取ったり、絵から想像してお話を書いたりする活動に意欲的に取り組める

のではないかと考えた。単元の初めに、「お話の作者になって、みんなが読みたくなるお話を書いて本にして、図書室に置こう」という学習のゴールを児童とともに設定し、活動の見通しをもたせる。また、教科書の「お話のさくしゃになろう」を読み、お話づくりの手順を確認する。

その後、教材文「スイミー」を読み、どんなお話だと感じたか、感想を聞く。そして、どのようなところからそのように感じたか（おもしろさの秘密）を文の中から探し、みんなで確かめる活動を通して、次のような作者の叙述の工夫を読み取らせていきたい。

- 困難を乗り越えて、それを知恵と勇気で自分の生き方に生かしていこうとする魅力的な主人公の設定。
- 「1ぴきだけまっくろ」「泳ぐのはだれよりも速かった」などの主人公の設定を生かした物語の展開。
- 初めに主人公の紹介があり、事件が起こり、問題を解決してハッピーエンドで終わるという起承転結のはっきりした構成。
- 比喩を使って色彩・様子・性質などを表現した情景描写、体言止め・倒置を用いて強調した表現方法、「こわかった。さびしかった。とてもかなしかった。」や「スイミーは考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。」のような短い文によるたたみかけるような表現などの表現技法。

その次に、読み取った作者の叙述の工夫を自分の表現に生かして、お話を書く活動を行う。「お話のさくしゃになろう」にある2枚の絵を「はじめ」と「おわり」にし、中の部分に何が起きたかを考えさせて、絵を描く活動を行う。絵は、児童の実態に応じて2枚書くか1枚描くかを選択させる。その際、「スイミー」の学習をもとに、主人公の設定に合った事件や解決方法を考えさせるようにする。

その後、絵をもとに、「はじめ」「中」「おわり」の順にお話を書いていく。部分ごとに、書き終わったら、教科書P63の観点をもとに自分の書いた文を見直させる。最後まで下書きが終わったところで、交換して読みあい、分かりにくいところやよかったところを伝え合う時間を設定する。その意見交換を生かして清書をする。

全員が完成したら、製本し、図書室に置いて貸し出しできるようにする。

なお、新出漢字の学習は、単元の進捗とは関係なく週1時間ずつ行っているため、単元の指導計画には含めていない。

4 単元の指導計画（全16時間）

次	過程	学習活動	指導上の留意点	評価基準と評価方法
第1次（1時間）	見通しをもつ	○「お話の作者になって、みんなが読みたくなるお話を書いて本にして、図書室に置こう」という目的を知らせ、お話を書く手順を確認する。そしてみんなが読みたくなるお話を書くために「スイミー」を読んでお話し書き方の工夫を見つけようという課題をもち、学習計画を立てる。		・単元全体のめあてを理解し、学習に意欲的に取り組もうとしている。（観察）
第2次（8）	教材から作者の叙述	○「スイミー」の全文を読み、物語の大体を理解する。（1時間） ・範読を聞いた後、音読をし、意味の分からない言葉の意味を知る。 ・感想をノートに書き発表する。	・作者、訳者の説明をする。 ・範読の際には、主人公であるスイミーがどんな時にどんなことをするかを気をつけて読んだ後、登場人物やどんなことが起	・今後の学習への意

時間)	<p>述の工夫を読み取る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「スイミー」はドキドキ、ワクワクする楽しい物語であり、そのために作者がどんな叙述の工夫をしているか（おもしろさの秘密）を見つけていこうとする意欲をもつ。 ○「スイミー」のおもしろさの秘密を探る。 1. 「お話のまとまりのひみつ」を探る。(1時間) <ul style="list-style-type: none"> ・文章を場面分けする。 ・文章のおおまかな構成をつかむ。[はじめ、中、おわり] ・「はじめ」の部分にスイミーの紹介、「中」で事件が起き、「終わり」では問題を解決して、めでたしめでたしになっていることがわかる。 2. 「主人公のひみつ」を探る。(2時間) <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」の部分のスイミーの紹介を読み、スイミーが他の魚と違うところに気付く。 ・中の部分で、事件が起き、主人公の気持ちや行動の変化が起こっていることを読み取る。 ・スイミーの設定と、事件やその解決方法が関係していることに気付く。 3. 「表現のひみつ」を探る。(2時間) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【授業公開1】 ・比喩を使って色彩・様子・性質などを表現した描写を見つけ、比喩を使った短文を書く。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・倒置、体言止めなどの表現の工夫を見つけることができる。 <p>○心に残った言葉や文を選び、それを使ってスイミーやレオ・レオニさんにお手紙を書く。</p>	<p>こったかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面分けの観点(時、場所、登場人物)を知らせ、全体を5つの場面に分ける。 ・教科書 P56 の学習の手引きを参考にして、はじめ、中、終わりに分けるようにさせる。 ・主人公の設定と、その後の展開が深く関わっていることに気付かせる。 ・児童の感想をもとに、比喩の表現に気付かせる。 	<p>欲をノートに書いている。(ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を3つのまとまりに分けることができる。(観察、発言) ・主人公の気持ちの変化や、主人公の設定と展開との関わり気付くことができる。(発言、ノート) ・比喩を使った描写を見つけることができる。(観察) ・比喩を使って短文を書くことができる。(ノート) ・表現の工夫を見つけ効果に気付いている。(発言、観察、ノート) ・手紙を書くことができる。(ワークシート)
第3次(7)	<p>教材を生かしてお話</p>	<p>○「スイミー」で学習した作者の叙述の工夫を生かして、みんなが読みたくなるようなお話を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなお話にしたいか考え、中の部分でどんな事件が起きるかを決めて、絵を描く。 ・はじめの部分のお話を書き、 	<p>・「スイミー」で学習した作者の工夫を掲示しておき、いつでも児童が振り返れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて1枚描くか2枚描くか選ばせる。 ・書くのが苦手な児童 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな出来事が起こるか考え、絵を描くことができる。(ワークシート) ・人物の設定を書く

時間 書く	<p>読み直し、表記の間違いがな いか確かめる。</p> <p>【授業公開 2】</p> <p>・おもしろさのひみつを使っ て、中の部分のお話を書き、 読み直し、表記の間違いがな いか確かめる。 (1 / 2 を公開)</p> <p>・終わりの部分のお話を書き、 読み直し、表記の間違いがな いか確かめ、友達と読み合い、 分かりにくいところやよかつ たところの意見交換をする。</p> <p>・原稿用紙に清書する。</p>	<p>には穴うめ式のワー クシートを用意する。</p> <p>・書くのが苦手な児童 には、書き出しの言葉 や時の移り変わりを 表す言葉を書いたヒ ントカードを用意す る。</p>	<p>ことができる。(ワ ークシート)</p> <p>・主人公の設定を生 かした事件を、表現 を工夫して書くこ とができる。(ワー クシート)</p> <p>・お話がしっかり終 わるように終わりの 部分の部分を書くこ とができる。(ワー クシート)</p> <p>・表記の間違いな く、お話を清書す ることができる。(作 品)</p>
----------	--	---	---

【評価】

- ・(評価 4) 教材文から読み取った作者の叙述の工夫を生かして、自分の力で「はじめ・中・おわり」のまとまりのあるお話を書くことができた。
- ・(評価 3) 教材文から読み取った作者の叙述の工夫を生かして、友達や担任のアドバイスを受けながら、「はじめ・中・おわり」のまとまりのあるお話を書くことができた。
- ・(評価 2) 教材文から読み取った作者の叙述の工夫を意識しながら、お話を書くことができた。
- ・(評価 1) 教材文から読み取った作者の叙述の工夫を意識しながら、何を書くか支援を受けてお話を書くことができた。

5 授業公開 1 (6 / 16) 5月18日(金) 2限

(1) ねらい

比喩を使って色彩・様子・性質などを表現した描写を見つけ、比喩を使って表現することの良さに気付くことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	支援 (○) 留意点 (・) 評価基準 (●)
5	<p>○本時のめあてをノートに書く。</p> <p>「スイミー」のおもしろさのひみつ③ひょうげんのひみつがわかる。</p>	
25	<p>○「ドロップみたいな岩から生えているこんぶやわかめの林がすごい」という感想を持った児童がいることに気付く、その表現の良さを考える。</p> <p>○その他に、同じような表現がないか探す。</p> <p>○それぞれの表現から受け取るイメージを話し合い、比喩を使うと短い言葉で様子をよくイメージできるように書くことができることに気付く。</p>	<p>・みんなの感想の中に出てきている「ドロップみたいな岩から生えているこんぶやわかめの林がすごい」を取り上げる。</p> <p>・短い言葉で様子がよくイメージできることに気付かせる。</p> <p>○様子を表すときに他の物を使って表している文が他にもあることを知らせ見つけさせる。</p> <p>・いくつか例を挙げさせ、「～みたいな」「～ような」という表現に気付かせる。</p> <p>・「～みたいな」「～ような」という表現を探して線を引かせる。</p> <p>・「ゼリーみたいな」「水中ブルドーザーみたいな」という表現を取り上げ、それぞれの言葉からどんなイメージが浮かぶかを上げさせる。</p>

		<p>○水中ブルドーザーの写真を用意する。</p> <p>●言葉からイメージできるものを考え、積極的に発表しようとしている。(観察)</p> <p>・第三場面では、スイミーを励ますような明るいイメージの比喩が使われていることに気付かせる。</p>
10	○比喩を使って、第三場面に付け加える短文を作る。	<p>○海の中の様子をイメージできるような写真を用意し、書く前に児童に見せて、イメージを広げられるようにする。</p> <p>○書くのにとまどっている児童には、写真をヒントカードとして渡す。</p> <p>・スイミーを励ますような明るいイメージの比喩を考えさせる。</p>
5	○本時の振り返りをノートに書く。	<p>●比喩を使うと、短い言葉で、様子をよくイメージできることに気付いている。(ノート)</p>

6 授業公開2 (12/16) 【本時】

(1) ねらい

おもしろさの秘密を使って、中の部分のお話を書くことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	支援 (○) 留意点 (・) 評価基準 (●)
5	○本時のめあてをノートに書く。 おもしろさのひみつをつかって、おはなしの中のぶぶんをかこう。	
5	○おもしろさのひみつ①、②、③を確認する。	・「スイミー」で学習したおもしろさのひみつを掲示しておく。
5	○絵を見せながら、どんなことが起こってどうなる話なのかを、となりの人に話す。	<p>・一人1分程度の時間で話すようにさせる。</p> <p>・早く終わった時は、聞いた子が分からないところを質問するようにする。</p>
20	○中の部分を書く。	<p>○始め、中、終わりでワークシートの色を変える。</p> <p>○書くのが苦手な児童には、書き出しの言葉や時の移り変わりを表す言葉を書いたヒントカードを用意する。</p> <p>・次時に続きを書くことを伝え、書くことができるところまで書くように指示する。</p> <p>●比喩、体言止め、倒置などの表現の工夫を使って中の部分を書いている。(ワークシート)</p>
5	○おもしろさの秘密を使って書けた児童の発表を聞く。	・長く書いている児童に発表させる場合は、全部でなく、読む部分を指定する。
5	○本時の振り返りをノートに書く。	●おもしろさのひみつを使って書こうとしていたか。(ノート)

7 実践の様子

(1) 公開授業1について

比喩を使って表現する良さに気付かせるため、初めに、児童の感想の中にあつた「ドロップみたいな岩」という表現を取り上げた。児童は「ドロップみたい」から浮かぶイメージとして、「ぺたぺたしている」「丸い」「いろいろな色がある」などをあげた。この時、「ぺたぺたしている」は、この部分の岩のイメージには合わないということをしっかり確認しなかったが、浮かぶイメージがすべて当てはまるわけではないということに気付かせるために、そこは確認しておく必要があつた。

その後、様子を表すときに他の物を使って表している文は他にないか問い掛け、児童は「にじ色のゼリーのような」という表現を見つけた。その表現から浮かぶイメージとしては、「プルプルしている」「やわらかい」「あまい」などがあげられた。そこで、「～ような」「～みたいな」を使うことにより、様子がよくイメージできること、浮かぶイメージすべてが様子として当てはまるわけではないことを確認した。

次に、「～みたいな」「～ような」という表現を探して教科書に線を引いた。ほとんどの児童が自分で見つけて線を引くことができた。

最後に、比喩を使って、第3場面に付け加える短文を作る活動を行った。活動の前に、海の中の写真を10枚ほどスクリーンに映し、なかなか文が書けない児童には、写真を印刷した物を手渡した。この時間では時間が足りず全員が文を作ることはできなかったが、次時には全員が比喩を使った文を作ることができた。



短文作りの前に、10枚ほどの画像を提示し、イメージを広げられるようにした。

(2) 公開授業2について

初めに、おもしろさのひみつ三つを確認した後、絵を見せながら、これからどんなことが起こってどうなるかをとなりの子に説明した。これまでも、となりの子と相談する活動は何回もしているが、今回のような形のペアトークはしたことがなかったので、とまどう児童もいた。「はじめ」の部分を書く時にも、取り入れておけば、もっとスムーズにできたと考える。

その後、前にかいておいた絵をもとに、「中」の部分のお話をかいた。絵をかく時にどんな話にするか考えていたため、ほとんどの児童がスムーズに活動に入った。

書き出しに悩んでいる児童がいたため、「困ったらスイミーをまねしてみよう」と声を掛けたところ、「ある日～」という書き出しを使って、書き始めることができた。

しかし、表現の工夫を使えた児童は少なかった。協議会では、お話の世界に入って自分が主人公になって書いてしまうと、表現の工夫に意識が向かないのではないかという意見もあった。次時も「中」の部分の続きを書くことにしていたので、「後で使おうと思っている。」という子も数人いた。足立先生からは、理解語彙と使用語彙にはタイムラグがあるので、今回使えなかったとしても、学習したことが生きなかったということにはならない、スパイラルで学んでいく必要があるというご指導をいただいた。

最後に、表現の工夫を使えた児童二人に、表現の工夫を使った部分を紹介してもらった。振り返りの中には、「次の時間は表現の工夫を使いたい」というものが多くあつた。



ペアトークで、これからどんなことが起こってどうなる話なのかを話す児童

実践の成果と課題

(1) 実践を通しての成果

「スイミー」と「お話の作者になろう」を合わせた単元構成は、児童が主体的に学ぶのに有効に働いたと考える。それは、次のような児童の姿が見られたからである。

- ・ 家庭で自主学習として「スイミー」の音読をしてきた児童が、1年生の時の物語の単元

に比べて、非常に多かった。少ない児童で20回、多い児童は50回以上読んできていたこと。

- ・ 第2次の最後に書いたスイミーやレオ・レオニさんへの手紙が、初発の感想に比べ、「スイミー」の内容をきちんと把握し、また、おもしろさのひみつに関わるものになっていたこと。
- ・ 児童が自分の物語を書く時に、教室に掲示してあった「スイミー」を見ながら、物語に立ち返って、おもしろさのひみつを確認しながら書いている姿が見られたこと。
- ・ どの児童も、物語づくりに意欲的に取り組んでいたこと。

このように、単元構成を工夫したことにより、物語文「スイミー」の学習においては、児童が「みんなに喜んでもらえる作品を書くために『おもしろさのひみつ』を探る」という目的意識をもって学習に取り組むことができた。それによって、児童の学習意欲が高まり、物語の世界を楽しむだけでなく、構成や表現などに目を向けさせることができた。

また、「お話の作者になろう」の学習においても、「スイミー」と組み合わせたことにより、自分の物語を書く時に、スイミーの構成や主人公の設定の参考にしたり、表現の工夫を利用したりすることができ、書くための手立ての一つとして、有効に働いたと考える。

(2) 今後の課題

書く活動に入った時に、スムーズに書くことができた児童もいるが、なかにはなかなか書き出せなかったり、はじめの部分に中の部分を続けて書いてしまう児童もいた。今回は、書くための手立てとして、

- ・ 単元構成の工夫
- ・ 「はじめ」「中」「終わり」の下書き用紙の色分け
- ・ 物語をかく前に、中の部分の絵をかく活動を設定し、物語のあらすじを考えさせる

の三つを考えた。しかし、用紙の色分けだけで、児童に構成をつかませるのは、難しかった。「はじめ」の部分には設定を書くが、設定をはっきりさせるためのワークシートを用意するなど、「スイミー」で学習したことから、書くことにつなげるための手立てがもう少し必要だった。

また、清書の用紙をマス目の原稿用紙にしたため、少し間違えると段落すべてを直さなければならなくなり、清書にとっても時間がかかった。マス目のない罫線だけの用紙を使った方が直すのが楽でよかったと思った。下書きだけでも2年生の児童にはたいへんな作業なので、清書は、教師がコンピュータですするという手段も考えられる。児童の実態や、作った物語の長さによって、清書のさせ方をどうするかは、検討が必要と考える。

第3学年 国語科学習指導案

平成24年7月18日(水) 5校時

指導者 山田 隆一

1 単元名 お話の登場人物を紹介しよう(「海をかつとぼせ」「本は友だち」 光村図書)

2 単元を通して身に付けさせたい言葉の力

○場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる力。(「読むこと」(1)ウ)

○文章を読んで感じたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付く力。(「読むこと」(1)オ)

○条件に合わせて文章を書き、それを読み合って、感想を述べ合うことができる力。

(「書くこと」(1)ウ、カ)

3 指導の構想

(1) 児童の実態(男子14名 女子15名 計29名)

平成24年度の国語学力検査(NRT)の結果より、偏差値平均56.7と全国平均を上回っており、3領域1事項の全国比を見てみると、「話すこと・聞くこと」112、「書くこと」114、「読むこと」145、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」111であった。

中領域で全国比100前後を見てみると、「話すこと・聞くこと」の「大事なことを聞き取ること 108」、「書くこと」の「文や文章を正しく書くこと 105」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「主語・述語を正しくおさえること 105」であった。

また各設問の小問分析をしてみると、全国通過率より下回っている設問が64問中1問と少ないものの、60%を下回る設問が11問(約17%)あった。

特に「書く」領域では「『でも』の使い方を推敲する」が31%、「物語の順序を考える」が48%、「文を正しく書き直す」が38%、「読む」領域では「指示語の内容を示す」が52%、「主題の読み取りと理解」が62%、「言語事項」では「『、』を付ける箇所の理解」が34%、41%と低いことが分かった。

児童の日常の授業の様子から、積極的に自分の考えを述べようとする児童は男子に多く、全体の20%くらいであるが、大きな声ではっきりと伝えたいことを最後まで話せる児童は少ない。また、話す人を見て聞くことができるように、指示を促されながら注意して聞けるようになってきた。

書く活動において、字を整えて、最後まで意味の通る文を書こうとしている児童は女子に多く、男子には少ない。伝えたいことの順序を考え、はじめ、中、終わりの簡単な3段落構成で書いたり、「～だから～です。」「一番言いたいことは～です。」などの基本的な話型を基に書いたりすることが、少しずつできるようになってきた。

音読の様子から、大きな声ではっきりと読もうとする児童は多い。また、図書利用を積極的に行っており、読書量も豊富である。

(2) 教材について

本教材は、主人公であるワタルの行動や会話を中心に、海での不思議な野球の練習の様子や気持ちの変化が描かれている。ワタルの気持ちの変化は、行動や会話、様子を表す言葉などから読み取ることができる。また、行動や会話の端々にワタルの人物像がとらえられる表現が組み込まれている。自分自身とワタルを比べ考えたことを発表し合うためには、場面ごとにワタルの行動や様子を読み取って整理し、叙述に基づいてその人柄や気持ちをとらえていくことが必要となる。

なお、本教材の場面ごとの構成は次のようになっている。

【場面1 P64】 「ワタル」の思い

【場面2 P66～67】 特訓を始めたところ

【場面3 P68～69】 「男の子」が現れたところ

【場面4 P69～72】 「男の子」との練習

【場面5 P75～76】 「波の子ども」との約束

本作品はファンタジーであり、また、比喩を使った表現の工夫が多く見られる。3年生では、ファンタジーであるということを扱うよりも、まず、児童にたくさんの疑問を出させると良いと考える。「急にアドバルーンが出てきたのはどうして。」「太陽のうでって何のこと。」といった疑問を教師と一緒に解いていく中で、想像力を働かせ「なるほど」と作品表現を楽しむことができるようにしたい。

(3) 単元の展開

研究主題

「言葉の力を高め、主体的に学ぶ子どもの育成」
～物語文・説明文の授業づくりを通して～

研究仮説

次のような手立てで国語科の授業改善を行えば、児童の言葉の力が高まり、主体的に学ぶ児童を育成することができる。

- ・ 単元を通してどのような言葉の力を高め、どのような表現活動を行うかを明確にする。
- ・ 説明的文章単元において学んだ思考と表現の型を用いて、自分の思いや考えを文に表す活動を行う。
- ・ 文学的な文章単元においては、作者の叙述の工夫を読み取り、自分の表現に活かす活動を行う。(本単元の実践)

研究主題と研究仮説を踏まえ、研究計画では「中学年の目指す子どもの姿」を次のように設定している。

中学年	目的意識をもって教材から学び、自分の思いや考えを適切に表現することができる。
-----	--

これを受けて、本単元のゴールに「お話の登場人物紹介をしよう」を設定し、「お気に入りのお話の登場人物を紹介したい」という目的意識をもたせ、読書交流を通して一人一人の読みを深められるように展開する。

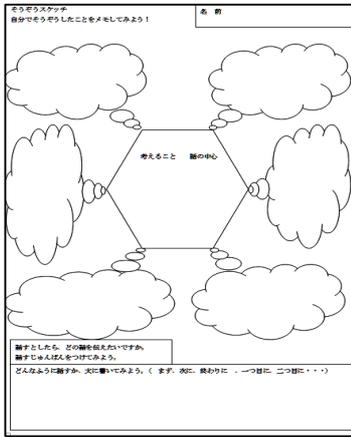
また、本単元で高めたい「言葉の力」と「表現活動の手立て」を以下のように設定する。

①登場人物を、叙述をもとに想像して読む力

読みの学習は気を付けないと、単なる印象読みの学習になってしまう。そうならないためにも「なぜそう思うのか」「どの言葉からそう感じたのか」を明確にしていく必要がある。直接的な言葉ではない部分に隠された意味を読み取ることは、文学的な文章を読む面白さにつながる。読み飛ばしてしまう言葉や、分かったつもりになっている言葉に着目し、想像を膨らませることができる力を身に付けさせたいと考える。

そこで、【手立て① 想像したことをまとめるワークシート「そうぞうスケッチ」の活用】により、どんな話なのかを想像し、場面の様子や登場人物の気持ちをみんなで把握する時は、随時図のようなシートを活用していく。

例えば、登場人物「ワタル」がどんな人物なのかを考える時に「自分とにているところ、ちがうところはどこかな?」と促す活動によって、自分と比べながら「ワタル」の人物像を、叙述をもとに想像して読んでいくと考える。想像したことはシートに書き込んでいき、自分がそ



う思った理由をはっきりとさせながら読む力をつけていきたい。

クラス全体で考える場面では、発表する時の型「ぼくはワタルとにているところがあります。それは、～というところです。」「わたしはちがうなと思いました。それは～というところです。」を押さえ、友達との相互の交流発表することで表現する力にもつなげていきたいと考える。

②読み取りから、自分の考えを表現する力

本単元では、自分の考えと友達の考えを交流し合いながら、お互いの考え方や感じ方の違いに気付かせていきたい。そのために、読み取った人物像を自分の言葉で表現する活動が必要である。その活動を通して、書きながら話の内容を再確認したり、よく分からないところに気付いたりすると考える。読むことと書くことをつなげ、書いたことを互いに読み合うことで、自分の表現を客観的に見つめ、表現をより良くする力を身に付けていくと考える。

そこで、【手立て② 場面ごとに「ワタル日記」を書き、読み取った人物像を表現させる】を行う。その活動により、「特訓することを決めた日の日記」「海の子と会った日の日記」「その後のワタル」などのように日記を主な場面ごとに書くことで、読み取った人物像を自分の言葉で表現することになると考える。その後は、班や学級でお互いに読み合い、友達の考え方や感じ方の違いについても気付かせていく時間を確保したいと考える。

③読書する力

本単元の学習を生かして、自分と近い年齢の子どもが登場する本を読むように働きかけ、自分と似ているところや自分とは違うところを見つけながら読むようにさせたい。視点をもった読書は、登場人物の考えや気持ちをとらえながら読むことにつながり、より深く物語の世界に浸ることができる。登場人物の行動や会話、場面の様子などを表す言葉に着目しながら読み進めるようにしたい。これは読書経験を積み重ねることによって自然に身に付いていく力でもある。多くの本に触れることができるようにしたい。

そこで【手立て③ 紙芝居による「お気に入りのお話の登場人物紹介】を行う。教科書p 80にある「本は友だち」の活動で上記の視点で読書を行い、読んだ本の中からお勧めしたい本を選んで登場人物やあらすじの紹介を行う。

その際、本単元で学んだように登場人物と自分の似ている点、違う点を読み取り、それを「①登場人物はこんな子です」「②どんなお話？あらすじは？」「③わたし・ぼくとくらべて・・・」の4面程度(表紙含む)の紙芝居形式でまとめ、出店形式の発表会を行うことで読書交流を行わせたいと考える。

この活動では「海をかつとばせ」で学んだ「叙述をもとに想像して読む力」を使い、自ら選んだお気に入りのお話の登場人物を紹介し合う。自分の登場人物に対する読みを紙芝居で明確に表現するとともに、発表を聞きながら自分と友達の読みとを比べられるようにしたい。そうすることで「読書って楽しい」「友達のいろいろな考えを聞くのが面白い」という心情をもち、幅広く読書しようとする態度を育てたいと考える。

4 単元の指導計画（全9時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	見直しをもつ	①「お話の登場人物紹介をしよう」という目的を知らせ、物語の読み方を学習する計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「海」「かっぱせ」という言葉をもとに、どんな話や場面なのか詳しく想像させる。 ・不思議に思ったことや疑問から、読み進める視点（課題）をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことや考えたことを、自分の言葉でまとめて書いている。（ワークシート）
2	教材から叙述をもとに想像して読む	<p>②登場人物や出来事を大まかにとらえ、短い文であらすじをまとめる。</p> <p>③物語の展開の順序を読み取る。</p> <p>④ワタルの人柄を読み取り、ワークシートにまとめる。 「ワタルが特訓をすることを決めた日」の日記を書く。</p> <p>⑤男の子の行動や言葉、場面の様子を根拠にして、男の子の正体を想像する。 「ワタルが男の子と会った日」の日記を書く。 【授業公開1】</p> <p>⑥ワタルの気持ちがどのように変化しているかを読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の挿絵等、準備 ・小学生が活躍する本を紹介する。 ・話の大体をとらえる。 ・本文の言葉を拡大した短冊型の紙 ・並び替えワークシート等、準備 ・ワークシートに読み取った内容をしっかりと書き込ませる。 ・読み取りをもとに、ワタルの立場でその日の日記を書かせる。 ・読み取りの視点に沿って、ワークシートに読み取った内容をしっかりと書き込ませる。 ・読み取りをもとに、ワタルの立場でその日の日記を書かせる。 ・ワタルの心の動きを一枚のワークシートにまとめることにより、ワタルの気持ちの変容をつかませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらすじをとらえて、自分の言葉で書いている。（ノート・発言） ・ばらばらになった文を読んで、物語の順序に並び替えている。（発言・ワークシート） ・ワタルの性格や野球に対する取組等を読み取り、整理して書いている。（ワークシート） ・ワタルになったつもりで「どうしても上手になりたい」という強い気持ちを日記に書いている。（日記） ・男の子の行動や言葉、場面の様子を根拠にして、男の子の正体を想像する。（ワークシート） ・ワタルになったつもりで、男の子と出会って練習した日の日記を書くことができる。（日記） ・ワタルの心の動きがわかる言葉を見つけている。（発言） ・場面の様子を表す言葉から、ワタルの気持ちを想像しながら読んでいる。（ワークシート）
3	読みを活用する	<p>⑦⑧選んだおすすめの本から、登場人物とあらすじ等の紹介を考え、紙芝居形式にまとめる。</p> <p>⑨お気に入りのお話の登場人物を紹介し合う。 【授業公開2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンタジーの作品を読み比べ、自分と登場人物の似ているところや違うところを見つけ、読み取らせる。 ・出店形式でグループを作り、紙芝居形式で発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物紹介等の書き方が分かり、工夫して紙芝居形式に書いている。（観察・作品） ・友達の発表を聞き、読みたい本を見つけている。（観察・感想カード）

【評 価】

- ・(評価4) 教材文から学んだ読み取り方を生かして、自分の力で4面構成の紙芝居を作り、あらすじや登場人物、自分と比べての感想などを、友達に紹介することができた。
- ・(評価3) 教材文から学んだ読み取り方を生かして、友達や先生のアドバイスをもとに4面構成の紙芝居を作り、あらすじや登場人物、自分と比べての感想などを、友達に紹介することができた。
- ・(評価2) 教材文から学んだ読み取り方を意識して、4面構成の紙芝居を作り、あらすじや登場人物、感想などを、友達に紹介することができた。
- ・(評価1) 教材文から学んだ読み取り方を意識して、あらすじや登場人物、感想などを、支援を受けながら友達に紹介することができた。

5 授業公開1 (5/9) 【本 時】

(1) ねらい

- ・ワタルの気持ちが変わったのは、男の子と「どんなできごと」があったからなのかを、読み取ることができる。(読む)
- ・ワタルになったつもりで、男の子と出会って練習した日の日記を書くことができる。(書く)

(2) 展開

時間	◎学習活動	留意点(・)と評価規準(○)
10	◎本文を読む。P68～72 前時までの流れをテンポよく確認する。 あらすじの学習から「ワタルが一人ぼっちだった気持ち」から、不思議な男の子によって「にっこり笑顔の気持ちに変化する」という話であることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ワタルの気持ちが変わったのは、男の子と「どんなできごと」があったからかな？</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習範囲を音読させ、読み取りの範囲を確認させる。 ・課題づくりでまとめた3つの視点に沿って、読み取ったことを確認する。 ・ワークシートを配り、本時のめあてを確認する。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・練習をてつだってくれた ・波の後ろから真っ白いボールを投げってくれた ・白いボールを次々投げってくれた 	<ul style="list-style-type: none"> ・【個で考える時間 約10分】を設定し、ワークシートに書かせる。その後、個々に読み取ったことを班の人に伝え合う。(5分) 最後に、学級全体で指名発表し、できごとについて黒板にまとめる。(5分)
25	<ul style="list-style-type: none"> ・やったぞ ホームラン すごい さいこう ぎゃくてんだなど、おうえんしてくれた など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワタルの気持ちが変わった「できごとの場面」を読み取り、ワークシートに書いている。(ワークシート)

30	ワタルになったつもりで、男の子と出会った日の日記を書いてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・不思議な男の子のおかげで「ワタルの気持ちがプラスに動いた」ことをとらえ、ワタルになったつもりで日記に書き表せるようにつなげたい。 ・書き出しの文を提示し、その後に条件に沿って書けるようにする。 ・時間があれば児童の書いた日記を紹介したい。 ○ワタルになったつもりで、男の子と出会って練習した日の日記を書くことができる。(ワタル日記)
45	◎「今日、ぼくはひみつのとっくんをするために海へ行った。すると、白いぼうしに青い服の小さな男の子に会った。」の書き出し文に合うようにワタル日記を想像して書く。	

6 授業公開2 (9/9) 9月予定

(1) ねらい

- ・紙芝居発表を通し、「お気に入りのお話」のあらすじや登場人物、自分と比べての感想などを、友達に紹介することができる。

時間	学習活動	留意点 (・) と評価基準 (○)
5	「お気に入りのお話の登場人物を紹介しよう」 だれがどんなお話の登場人物を紹介してくれるかな？発表したり聞いたりしてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・予め、発表内容を把握し、4～5人の6班編成にしておき、発表の順番や聞きに行く班を決定しておく。 ・前半3班、後半3班の出店発表形式とし、それぞれ発表を聞き合えるようにする。 ・発表場所は体育館等、広いスペースのある場所で行う。 ・発表を聞く際には評価カードを用いて、①登場人物②あらすじ③自分と比べての感想の3点について、よく分かる発表だったかを評価させ、発表者に渡すようにする。
20	前半の部 (15分) <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>発表者 ● ※前、後半A, B, C班編成 ※聞き手が均等になるように</p> <p>聞き手…同じ班の児童と後半の子を含め10名程度</p> </div> 準備・移動 (5分)	
40	後半の部 (15分) ※前半と同様に行う。	
45	今日の自分の発表についてふりかえろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「登場人物の紹介」「あらすじ」「自分と比べての感想」がくわしく伝わったか、3つの視点で振り返らせる。 ○「お気に入りのお話の登場人物紹介」で登場人物やあらすじ、自分と比べての感想などを、友達に紹介することができる。(観察、ふりかえりシート)

7 実践の様子



自分の読み取りを班の友だちに伝える場面



「お気に入りのお話」を伝える場面

成果と課題

(1) 実践を通しての成果

【手立て① 想像したことをまとめるワークシート「そうぞうスケッチ」の活用】について

ワークシートは、中心に「考えること、課題」、周囲に関連する「読み取り」を書けるような関係図(イメージマップ)になっているので、子どもたちは課題に正対して考えることができた。子どもたちには、ワークシートの吹き出しの数だけ読み取ったり考えたりして書き出そうとする様子があった。課題に対して意欲的に考えたり読み取ったりしたことが記録から確認することができた。

【手立て② 場面ごとに「ワタル日記」を書き、読み取った人物像を表現させる】について

主人公になったつもりで「特訓することを決めた日」「海の子と会った日の日記」を書かせる活動を行った。前者では「なぜワタルが特訓することを決めたのか」を文章から読み取り、「自分がワタルだったらこう思うかな?」「こんな気持ちですぶりをやろうと思ったのかな?」などを、日記に書き表すことができた。「主人公の気持ちを想像して読み取る」という活動をする時には、日記を用いて書き表すという手立ては有効であったと考える。

ただ後者の場合は、課題が難しかった。それは、前者が「主人公自身のことについて日記に書く」ということに対し、後者は「主人公が会った『海の子』のことについて日記に書く」という次元の違いがあったからだ。子どもたちの「ワタル日記」を見ると、約3割の子どもは基準を満たしているが、それ以外の子どもは「あらすじを書いている」「会話文になっていて日記ではない」などであった。主人公から見た「第三者的な人物」について日記に書き表すという活動は、ハードルが高かった。

【手立て③ 紙芝居による「お気に入りのお話の登場人物紹介】について

子どもたちは課題図書から本を選び、登場人物やあらすじ、おすすめの場面や感想などを紙芝居形式にまとめて発表した。紹介する視点を明確に設定して作らせることで、その視点に沿った読み取りを行いながら紙芝居を作ることができた。また、発表会を通して、お互いに紹介したい本の登場人物を伝え合い、聞き合うことで、読書する楽しさや意見を伝える楽しさを味わうことができた。

(2) 今後の課題

単元のゴールを設定する難しさを感じた。児童の実態を踏まえつつ、どんなゴールが適切か、どのように考えて設定すればよいのかを明確にする必要がある。

第4学年 国語科学習指導案

平成24年11月7日（水）第5校時

授業者 今井 友美

1 単元名 物語文を読んで、オリジナルのハッピー物語を作ろう

（「三つのお願い」 光村図書）

2 単元を通して身に付けさせたい言葉の力

○登場人物の性格や気持ちの変化などについて、叙述をもとに想像して読むことができる力（「読むこと」（1）ウ）

○「三つのお願い」で学んだ物語作りに必要なことをもとに、書こうとすることの中心を明確にして物語を書くことができる力

（「書くこと」（1）イ・ウ・オ・カ 「言語活動例」（2）ア）

3 指導の構想

（1）児童の実態（男子9名、女子17名 計26名）

今年度4月に実施したNRTの結果を見ると、「文学的な文章を読むこと」は全国比103、「文の中心やつながりに注意し書く」は全国比106である。

読むことに関して、毎朝の10分間読書や週1時間の図書の時間の様子から、読書を楽しんでいる児童が多い。起承転結のはっきりとした短編の物語を好む児童もいれば、長編物語のシリーズを読んでいる児童もいる。しかし、本を読むことを好むが、なんとなく読んでおり、物語の内容を理解できていない状態の児童もいる。

書くことに関しては、書く力を高めるために、授業のふり返りを書く、友達の作品を読んだり見たりして感想を書く、連絡帳にその日の出来事や感想を2行以上書く、テーマに沿った作文を書くなどの取組を日常的に行っている。その結果、ほとんどの児童が、短時間でふり返りや感想を書くことができるようになった。本単元で取り組むオリジナルの物語作りは、児童にとって初めての活動である。

このような実態から、オリジナルの物語を作るという活動を通して、教材の物語文を作者の視点をもって読むことで、物語を読む際の着眼点（物語の設定、中心人物の気持ちの変化、出来事、物語の主題）に気付く力を身に付けさせたい。この物語を読む際の着眼点は、オリジナルの物語を創作する際に児童の思考の手助けになると考え、「物語の種」と呼ぶ。単元終了時には、オリジナルの物語を作る楽しさや作品を完成させる達成感を味わわせたい。

今年度学習した文学的文章単元で、「白いぼうし」では「朗読劇をして、家の人に聞いてもらおう」というゴールを設定し、教材文の読み取りを行った。登場人物の気持ちや情景を聞き手に伝えるために、何度も教材文を読んだり、グループで話し合っ

語の感想を書こう」ということで、人物の行動や会話に注目して読んでいった。「気持ちに注目して読むと登場人物のことが分かるし、友達のいろいろな意見が出て面白い」と感想を書いた児童がいた。「ごんぎつね」では、「ラストシーンをハッピーエンドにしよう」と物語の続きを創作する活動に取り組んだ。

(2) 教材について

本単元で使用する教材「三つの願い」は、1セント硬貨がかなえるという三つの願いをめぐる、等身大の少女と少年の人間関係が描かれた作品である。一人称の視点で書かれているため、中心人物ノービィの心情が地の文・会話文に直接的に表れていて、行動や会話から人物の性格や気持ちを想像して読む学習が行いやすい。

願いがかなうごとに変化していくノービィの心の様子を、叙述に即して読み取らせるとともに、児童が自分の周りの人間関係を大事に思う心を養っていきたい。

(3) 単元の展開

研究主題

言葉の力を高め、主体的に学ぶ子どもの育成
～物語文・説明文の授業づくりを通して～



研究仮説

次のような手立てで国語科の授業改善を行えば、児童の言葉の力が高まり、主体的に学ぶ児童を育成することができる。

- ・単元を通してどのような言葉の力を高め、どのような表現活動を行うかを明確にする。
- ・説明的文章単元において学んだ思考と表現の型を用いて、自分の思いや考えを文に表す活動を行う。
- ・文学的な文章単元においては、作者の叙述の工夫を読み取り、自分の表現に生かす活動を行う。

中学年：目的意識をもって教材から学び、自分の思いや考えを適切に表現することができる。

を受けて、本単元を次のように展開する。

◎単元設定

まず、この単元のゴールとなる表現活動を「読んだ人がハッピーになる物語を作ろう」とし、書いたものを全校の児童に読んでもらうこととした。

児童は、昨年度、教材文「すがたをかえる大豆」の学習をした際に、説明文の型を学び、それをもとに食べ物のひみつについて説明する文を書いて、本を作った。それを図書館に置いて、全校児童に読んでもらっている。

本単元でも、「みんなが作ったオリジナルのハッピー物語をまとめて本にし、図書室に置いて全校の人たちに読んでもらおう」というゴールを設定することで、児童は作者の視点をもって教材文を読むことができ、物語の設定、中心人物の気持ちの変化、出来事、物語の主題などを読み取る力が付くのではないか。また、それを「物語の種」として生かし、オリジナルの物語を作る活動に意欲的に取り組めるのではないかと考えた。

オリジナルの物語を作るという行為は、物語文に向き合い、設定や内容などについて理解を深めるとともに、自分の思いや考えを見つめ直すことにつながる。どんな言葉を使えば自分の思いをよりよく表すことができるかを考えながら、オリジナルのハッピー物語を作る活動を通して、言葉に向き合う態度も育てたい。

◎登場人物の性格や気持ちの変化などを、叙述をもとに読む力を付けるための手立て
ア 物語を読む際の着眼点の確認

学年部共通で使用している「めざせ！よみの達人」の項目から、物語では、設定、中心人物の気持ちの変化、出来事について書かれた部分に目を付け、確認する。複数の物語を読み、それらをとらえていけば作品の概要をつかむ力が付くと考える。また、中心人物の気持ちの変化を通して作者が読者に伝えようとしていることを考え、物語の主題は何かをとらえる力も身に付けさせたい。

イ ワークシートの活用

物語を読む際の着眼点の確認をする際に、ワークシートを活用する。物語の設定、中心人物の気持ちの変化、出来事、物語の主題などの項目ごとに記述できる形にし、どの物語でもとらえられるようにしたい。また、オリジナルの物語作りの際にも同様のワークシートを使用し、今まで書きためてきたワークシートを参考にして自作の物語の設計ができるようにする。

ウ 書く活動を通してのふりかえり

毎時の最後に「分かったことや考えたこと」などをノートに書きためていき、自分の学習の跡を残していく。自分の考えの広がりや深まりに気付けるようにしていく。

◎書こうとすることの中心を明確にして物語を書く力を付けるための手立て

エ 「物語の種」の活用

物語を読む際に確認してきた着眼点は、物語を創作する際に児童の手助けになるもの「物語の種」と考える。設計ワークシートを書くときや創作中に詰まった時には、これまでに物語を読んで書きためてきたワークシートを見返すよう促す。また、設定や出来事で児童が物語に取り入れられそうな事柄を書き出し、創作時のヒントカードとして活用する。

オ 物語作りのためのミニトレーニング

オリジナルの物語作りの前に、創作ミニトレーニングをペアやグループで行う。例えば、グループのメンバーがそれぞれ物語の起承転結の部分を考え、1つの物語を作る。短時間で何回もミニトレーニングをすることで、発想の幅を広げていきたい。

カ ペア・グループでの意見交換

自分の書いた表現が読者にとって伝わるものか確かめるために、ペアやグループで読み合い意見交換をする時間をつくる。主題が伝わる書き方になっているかアドバイスをもらったり、友達の作品を読んで発想の幅を広げたりすることができる。また、書き進めるのに時間が掛かる児童はここでヒントをもらったり、誤字脱字があれば修正したりする機会としたい。

4 単元の指導計画（全10時間）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価基準と評価方法
第1次	1	①「みんなが作ったオリジナルのハッピー物語をまとめて本にし、図書室に置いて全校の人たちに読んでもらおう」というゴールを設定する。そして、物語作りのために作者の視点で「三つのお願い」を読んで、物語作りに必要なことを見つけようという課題をもち、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のねらいを明確にさせる。 ・作者の視点をもつことを意識させる。 ・作者として、読者に伝えたいことをおおまかに考えさせる。 	【関】学習課題を理解し、学習の見通しをもとうとしている。(観察、発言)
第2次	2 3 4 5	<p>「三つのお願い」を通読し、物語の主題を伝えるために、作者が工夫したことを考える。</p> <p>②主題をとらえる。 【公開1】</p> <p>③設定（時、場所、登場人物）の工夫を考える。</p> <p>④中心人物の気持ちの変化や出来事の工夫を考える。</p> <p>⑤教材文以外の物語でも確認する。</p>	<p>②～⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の視点をもつことを意識させる。 ・物語を読む際の着眼点として、次のような観点を児童に示し、児童が読みとったことを整理していく。(設定（時、場所、登場人物の性格など)、中心人物の気持ちの変化、出来事、物語の主題) 	<p>【読】地の文や会話文から登場人物の性格について想像している。(ワークシート、発言)</p> <p>【読】物語を読み、どのような出来事があった、中心人物の気持ちがどのように変化したかをとらえている。(ワークシート、発言)</p>

第 3 次	6	⑥オリジナルのハッピー物語を作るための設計ワークシートをかく。	<ul style="list-style-type: none"> ・作者として、主題を伝えるための工夫を考えさせる。 ・物語を読む際の着眼点を「物語の種」として使う。 ・今まで使用してきたワークシートとほぼ同様のものを使用する。 ・創作のヒントとなるカードなどを用意する。 	<p>【書】書こうとすることの中心を明確にして物語を書いている。(観察、作品)</p> <p>【書】書いたものを読み返したり、アドバイスを聞いたりして、よりよい表現に改めている。(観察、作品)</p> <p>【言】自分の思いをよりよく表すための言葉を増やしている。(観察、作品)</p>
	7	⑦オリジナルのハッピー物語を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・短い文でも書くように促す。 	
	8	⑧アドバイスを聞き、推敲する。(ペア・グループ) 【本時・公開2】	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスのコツを知らせ、相手が前向きになるようなアドバイスを心掛けさせる。 	
	9	⑨アドバイスをもとに物語を書きなおす。	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ物語に対して感想を書かせる。 	
	10	⑩物語を読み合う。		

【評価】

- ・(評価4) ワークシートに、物語の設定、中心人物の気持ちの変化、出来事、物語の主題について書き、それをもとに表現を工夫して物語を書くことができる。
- ・(評価3) ワークシートに、物語の設定、中心人物の気持ちの変化、出来事、物語の主題について書き、それをもとに物語を書くことができる。
- ・(評価2) ワークシートに、物語の設定、中心人物の気持ちの変化、出来事、物語の主題について書くことができる。
- ・(評価1) ワークシートに、物語の設定、中心人物の気持ちの変化、出来事、物語の主題のいずれかを書くことができる。

5 授業公開1 (2 / 10)

(1) ねらい 「三つのお願い」の主題について考える。

(2) 展開

時間	学習活動	支援 (○) 留意点 (・) 評価基準 (●)
3分	<p>本時の学習課題をつかむ。</p> <p>◎「三つのお願い」の主題は何か考えよう。</p>	
10分	<p>「三つのお願い」の主題は何か考える。</p> <p>「三つのお願い」の主題は何だと思えるか。その理由は？</p>	<p>○「主題」：作者が読者に一番伝えたいこと</p> <p>○ペアで話してからノートに書くよう指示する。</p> <p>●主題は何かを考えている。</p> <p>●その理由も書いている。</p>
20分	<p>主題だと思うこととその理由を発表する。</p> <p>「主題はだれにでもいいことはあるということだと思える。ノービィーは偶然拾った1セント玉で願い事がかなったから。」</p> <p>「主題はお母さんの言うことをきこうだと思える。お母さんがとてもいいことを言っていたから。」</p> <p>「主題は友達を大切にしようだと思える。ノービィーはビクターとけんかしてしまうけど、やっぱり大切な友達だと気付いて、最後のお願いでビクターに戻ってきてほしいと言ったから。」</p>	<p>○発言に自信がない児童が発表する場合は、発言をつないだり補足説明をしたりすることを周りに促す。</p> <p>・できるだけ多くの児童の考えを聞く。</p>
5分	<p>作者の工夫にふれる。</p>	<p>○主題を伝えるために作者が工夫していることに気付かせる。</p>
7分	<p>ふり返りを書く。</p> <p>「今日分かったことは…」</p> <p>「自分が書くときに使いたいことは…」</p>	<p>○今後の学習につながるように、ふり返りに書く内容を指示する。</p>

6 授業公開2 (8/10)

(1) ねらい 創作中の物語を読み合い、アドバイスをし合うことができる。

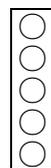
(2) 展開

時間	学習活動	支援 (○) 留意点 (・) 評価基準 (●)
3分	<p>本時の学習課題をつかむ。</p> <p>・〈読んだ人がハッピーになる物語〉を書いていることを確認する。</p>	<p>○本時までの学習をふり返り、読者を意識して物語を書いていることを確認する。</p>
	<p>◎友達の物語を読んで、ハッピーアドバイスをしよう。</p>	
7分	<p>アドバイスの視点を共有する。</p> <p>「三つのお願い」のハッピーレベルをふり返り、本時の活動内容を知る。</p> <p>・友達の物語に、場面ごとに5段階のハッピーレベルをつける。</p> <p>・なぜそのレベルにしたのか。根拠となる言葉や文に印を付ける。(特に、出来事や中心人物の気持ちの変化に着目して)</p> <p>・気に入ったところや分かりやすい書き方など、「いいな」と思った所にも印を付ける。</p> <p>・友達の物語をもっとハッピーな物語にするためのアドバイスをする。</p>	<p>○例文として「三つのお願い」を提示する。</p> <p>○物語を読む際の着眼点「物語の種」の中でも、特に出来事と中心人物の気持ちの変化に着目させる。</p>
28分	<p>創作中の物語を班で読み合う。</p> <p>・1人(作者)は物語を読み、ほかの2~3人(読者)は手元のシートを見て、印を付けながら聞く。</p> <p>・作者が読み終わったら、読者はハッピーレベルとその理由を作者に伝える。また、気に入ったところや分かりやすい書き方など、「いいな」と思った所も伝える。</p> <p>・「ここをもう少し詳しく書くといいよ」「こんな出来事を入れてみたら？」などのアドバイスもする。</p>	<p>・3~4人グループで、1人につき6分。</p> <p>○作者の伝えたいことが、より確かに読者に伝わるように練り上げる場とする。</p> <p>○友達の物語を読んで、気に入ったところも積極的に伝えるように指示する。</p> <p>●創作中の物語を読み、出来事や中心人物の変化に着目して、アドバイスをしている。</p>
7分	<p>もらったアドバイスをもとにふり返りを書く。それを紹介する。</p> <p>「アドバイスをもらって…」</p> <p>「次の時間は…」</p>	<p>○次の時間につながるように、ふり返りに書く内容を指示する。</p>

〈板書計画〉

① ◎ 友達の物語を読んで、ハッピーアドバイスをしよう。

○ ハッピーレベルを付ける。



○ なぜそのレベルにしたのか。理由となるところに印や線を付ける。

○ 気に入ったところや分かりやすい書き方など、「いいな」

と思っただころに印や線を付ける。

○ ハッピーレベルや印を付けた紙をわたしながら、友達の物語をもっとハッピーな物語にするためのアドバイスを

口で伝える。

今日のピカリ

「アドバイスをもらってうれしかったことは…」

「アドバイスをもらって参考になったことは…」

「次の時間は…」

※使用したワークシートはエクセルファイルで保存。

7 指導の実際

(1) 公開授業1について

「三つのお願い」の主題は何かを考えるというめあてで授業をした。児童が、中心人物の気持ちの変化や出来事に注目して物語を読むことで、主題（物語の作者が読者に一番伝えたいこと）に気付き、それを伝えるために作者が工夫していることを見つける姿を期待して授業を行った。

児童は、教材文をよく読んだり、近くの友達と話し合ったりして、主題は何かを真剣に考えていた。大半の児童は、教材文の中心人物の気持ちの変化や出来事が書かれている部分に注目し、そこから「友達は大切だ」ということを主題と考えた。中には「1 セント玉をひろうといいことがある」ということが主題だと考える児童もいたが、学級全体で話し合う中で「友達は大切だ」の意見に収束した。



教材文に書かれている中心人物の気持ちの変化や出来事に注目して、主題について考えた。

(2) 公開授業2について

児童が創作している物語を読み合い、読んだ人がハッピーになるためのアドバイスをしようというめあてで授業をした。アドバイスの視点を共有してから、班ごとに物語を読み合う活動を行った。

ハッピーレベルを付ける段階では、どの児童も意欲的に取り組んでいた。アドバイスを伝える段階では、普段は読解が苦手な児童もハッピーレベルの理由となる文を作者に伝えることができた。しかし、お互いの物語を読み合う時間が短く、アドバイスを伝えきれない班があった。また、ただ感想を伝えるだけであったり、作者である児童の物語の読み方や声の大きさなど態度面に対してアドバイスをしたりするなど、最初に共有したアドバイスの視点とは異なる内容を伝える児童もいた。



班ごとに、お互いが創作している物語を読んで、アドバイスをし合った。

実践の成果と課題

(1) 実践を通しての成果

単元のゴールとなる表現活動を「読んだ人がハッピーになる物語を作ろう」とし、学習を進めたことにより、作者の視点をもって教材文を読む姿勢が見られた。児童は前単元の「ごんぎつね」で創作活動に取り組んだこともあり、全編オリジナルの物語を作ることに意欲的であった。

また、物語を読む際の着眼点（物語の設定、中心人物の気持ちの変化、出来事、物語の主題）について指導し、そのことに注目して教材文やそのほかの物語をいくつか読み、ワークシートにまとめていった。この活動をくり返していくと、「今回の登場人物は…」「ここにいつが書いてある。」「ここここで中心人物の気持ちの変化がよく分かる。」など自力でまとめる児童が増え、初めて読む物語でも着眼点を頼りに読む力が身に付いてきたと感じる。

(2) 今後の課題

〈公開1〉の授業で話し合いをした際に、教師対児童のやりとりになることが多く、児童対児童の話し合いにはできなかった。また、〈公開2〉の班でアドバイスをし合う活動でも、相手にアドバイスができる児童とそうでない児童がいた。友達の意見を聞き、それに対してどう考えるか、友達の書いたものに対してどんなアドバイスをするかなどは、一朝一夕にできることではないので、今後も児童同士をどのように関わらせるか意識して、授業形態や発問を考えた授業を構築していきたい。

第6学年 国語科学習指導案

平成24年7月18日 5限

指導者 三浦 秀之

1 単元名 佐渡の体験を通して自分の考えを伝えよう

(「感情」「生き物はつながりの中に」 光村図書)

2 単元を通して身に付けさせたい言葉の力

○筆者の考えをとらえ、事例の効果や表現の工夫に目を向けることができる力

(「読むこと」(1)ウ)

○自分の考えが伝わるように事例や表現の工夫を使って書くことができる力

(「書くこと」(1)ア・イ・オ)

3 指導の構想

(1) 児童の実態(男子10名、女子11名 計21名)

本年度4月に行われたNRT学力テストの結果は、国語が偏差値45.3と全国平均を下回っている。全体的に、作文に限らず「書くこと」に抵抗を感じている児童が多く、主語がない文、接続語が適切に用いられていない文章、漢字を使っていない文章が目立つ。また、事象についての感想は、書くことができるが、事象に対して自分の考えを表現する面では弱さが見られる。そこで、国語の学習に限らず、どの教科でも学習の始めにめあてを立てて、最後に振り返りを書いたり、学校行事等の前には、一人一人めあてをもち、振り返りで作文を書いたりする活動を多く取り入れてきた。また、算数の学習では、自分の考えを言葉や図を使ってノートに書いたり、式の説明を文章で書かせたりする活動も行ってきた。

このような実態から、意欲的に書く活動が行えるように、佐渡の体験と関連付けて「自分の生き方」というテーマで書く活動を行う。そこで国語の学習を通して「書く内容」を明確に示し、事例の効果や表現の工夫を学び、より自分の考えが伝わるように書くことができるようにさせたい。

(2) 教材について

筆者は、自分の考えを伝えるために、構成や表現を工夫している。ここでは、「何が」「どのように」書かれているのかを読むことに加えて、その表現の工夫の「効果」を考えさせようとしている。

構成の工夫については、生き物の3つの特徴を読み取るようにしている。事例を使って特徴を説明し、まとめている一文がある。事例から自分の考える特徴へと結びつけ、読者に伝わりやすくするために考えられている。また、なぜ、本物のイヌとロボットのイヌを対比したのか、その効果に目を向けるようにしている。対比については、4年「千年の釘に挑む」「ゆるやかにつながるインターネット」をはじめ、何回か学習

しているが、ここでは、それをとらえるだけでなく、「効果」を考えさせるようにしている。

さらに、「あなたが飼っているチロ」のような具体的な書き方の効果、「本当に同じでしょうか。」のように呼び掛けるような書き方の効果に目を向けることができるようにしている。

そこで、この単元では、構成の工夫（事例・対比の効果）、具体的な書き方の効果、呼びかける書き方の効果を学び、その後の書く活動に生かしていく。書く活動では、修学旅行で行く『佐渡の体験活動』と関連付けて、自分のこれからの『生き方』をその土地で頑張っている人たちの考えと今の自分とを比較し、将来を見据えて今自分にできることは、何かを考えさせたい。そして、自分の描く「将来の自分」に近づけるように今回の活動を生かしていきたい。

（3）単元の展開

研究主題

言葉の力を高め、主体的に学ぶ子どもの育成
～物語文・説明文の授業づくりを通して～



研究仮説

次のような手立てで国語科の授業改善を行えば、児童の言葉の力が高まり、主体的に学ぶ児童を育成することができる。

- ・単元を通してどのような言葉の力を高め、どのような表現活動を行うかを明確にする。
- ・説明的文章単元において学んだ思考と表現の型を用いて、自分の思いや考えを文に表す活動を行う。
- ・文学的な文章単元においては、作者の叙述の工夫を読み取り、自分の表現に生かす活動を行う。

を受けて、本単元を次のように展開する。

①単元設定

この単元を指導するにあたり、単元のゴールとしてどのような表現活動を行うのがよいかを様々考えた。児童は、6年生になって総合の学習で佐渡のことや自分の将来のことについて今学習している最中である。そこで今回は、佐渡の体験活動を通して、「自分の生き方」について考えさせることとした。相手意識をもたせるために「他の学校の同じ6年生に佐渡で体験したことを生かして自分たちの思いを伝える」という目標を設定することで、目的意識をもって意欲的に取り組むことができるのではないかと考える。

また、相手に自分の考えが伝わるように書くための工夫がこの教材文から学べること

を児童に伝え、自分の書く意見文に生かすためにその工夫を学ぼうとする意欲につながると考える。

②意見文に使うための構成と表現の効果を学ぶ

ア 構成の工夫（事例・対比の効果）

教材文「感情」「生き物はつながりの中に」はどちらも大きく分けると 序論・本論・結論の文章構成となっている。この単元では、最終的に自分で意見文を書くことから、まず筆者の主張を見つけ出す。そして、その主張を分かりやすく伝えるためにどのように説明しているのかを考えさせる。そこで、本論には、いくつかの事例で説明していることや一つ一つの事例から筆者の考えを説明することで筆者の主張が伝わるように工夫されていることに気付かせる。また、事例の中で対比させることで、信憑性や違いをはっきりさせる効果があることにも気付かせたい。序論は、筆者の主張を説明するための問題提起であることにも気付かせていく。

この流れで読み取りの学習をすることで実際に自分が書く時にも同じ流れで考えることができ、読み取りで学習したことが活用できると考える。



イ 具体的な書き方の効果

「あなたが飼っているチロ」のように、具体的な名前を挙げて説明している。このような書き方をすることで以下の点について効果があることを学ばせる。

- ・自分に語りかけているようで話に引き込ませる効果
- ・読み手が自分のことに置き換えて考えさせる効果
- ・自分の話ととらえられる効果

ウ 呼びかける書き方の効果

「本当に同じでしょうか。」のように筆者が読者に呼び掛ける。このような書き方をすることで以下の点について効果があることを学ばせる。

- ・自分に語りかけているようで、話に引き込ませる効果
- ・呼びかけに応じようとして、考えずにはいられなくなる効果

エ 題名の工夫

「感情」「生き物はつながりの中に」の2つの題名から筆者の主張を凝縮した。「生き物はつながりの中に」は、「つながり」ということを生き物の3つの特徴から説明し、筆者の主張につなげていることに気付かせる。実際に自分の書く意見文に題名をつける時にも自分の考えが伝わる題名をつけさせるようにする。

4 単元の指導計画（全 10 時間）

次	学習活動	指導上の留意点	評価基準と評価方法
第 1 次	①「佐渡の体験を生かして自分の考えを伝えよう」という単元全体のめあてをもつ。学ぶ意欲をもつために教材文に自分の考えが伝わるように書くための工夫があることを伝える。	①単元全体のめあてを伝え、最後に「他の学校の同じ6年生に佐渡で体験したことを生かして自分たちの思いを伝える」をすることを伝える。最終の活動を伝え、学習の見通しをもたせる。	①自分の考えをまとめて「他の学校の6年生に見てもらおう」という学習の見通しをもっている。
第 2 次	②「感情」を読み、筆者の主張から文章構成を学ぶ。 ③「生き物はつながりの中に」を読み、筆者の主張から文章構成を学ぶ。 ④筆者の考えを伝えるために対比させることの効果を学ぶ。 （公開1） ⑤具体的な書き方の効果や呼びかける書き方の効果について学ぶ。	②段落分けをした後に、筆者の主張がどの段落にあるか見つけ、主張を伝えるためにどのような文章構成になっているかを考えさせる。 ③段落分けをした後に、筆者の主張がどの段落にあるか見つけ、主張を伝えるためにどのような文章構成になっているかを考えさせる。 ④対比の効果から筆者の意図を読み取らせる。 ⑤「あなたが飼っているチロ」「本当に同じでしょうか。」などの書き方から筆者の意図を読み取らせる。	②筆者の意図をとらえ、文章構成の効果を読み取っている。 筆者の文章構成の工夫から筆者の意図を読み取っている。 ③筆者の意図をとらえ、文章構成の効果を読み取っている。 筆者の文章構成の工夫から筆者の意図を読み取っている。 ④読者に与える効果について読みとっている。 ・「生き物はつながりの中に」の主題をしっかりと捉えさせるために対比を使った。 ⑤読者に与える効果について読みとっている。 ・話に引き込ませる。 ・考えずにはいられなくなる。 ・自分の話ととらえさせる。

第 3 次	<p>⑥「自分の生き方」のテーマで書くイメージマップを作る。</p> <p>⑦結論（自分の主張）を書く。</p> <p>⑧佐渡での体験を事例に本論を書く。（公開2）</p> <p>⑨結論のための序論（問題提起）を書く。</p> <p>⑩推敲する。</p>	<p>⑥イメージマップをもとに文章の構成を考えさせる。</p> <p>⑦対比・呼びかけの工夫を意識して自分のテーマに沿った主張を書かせる。</p> <p>⑧佐渡で体験したことやインタビューして得たことを事例に自分が伝えたいことと結び付けて書かせる。</p> <p>⑨結論に結び付けるための問題提起を書かせる。（序論）</p> <p>⑩自由交流でお互いの意見文を読み合い、誤字脱字や学んだことを生かしているところを見つけ伝える。</p>	<p>⑥イメージマップをつくることできる。</p> <p>⑦自分の伝えたいことを書くことできる。</p> <p>⑧自分が伝えたいことを事例を用いて書いている。</p> <p>⑨自分が伝えたいことの話にもっていくための問題提起を書いている。</p> <p>⑩友達の意見文を読んでアドバイスや良いところを見つけられる。</p>
-------------	---	---	---

【評価】

- ・（評価4）教材文から学んだ工夫を生かして、自分の力で文章を書いた。
- ・（評価3）教材文から学んだ工夫を生かして、友達や教師にアドバイスをもらいながら文章を書いた。
- ・（評価2）教材文から学んだ工夫を生かして、ワークシートを使いながら文章を書いた。
- ・（評価1）教材文から学んだ工夫を使わずに文章を書いた。

5 授業公開1 (4/10)

(1) ねらい 筆者の考えを伝えるために対比させることの効果を理解することができる。

(2) 展開

時間	学習活動	支援 (○) 留意点 (・) 評価基準 (●)
5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">事例の中の工夫を見つけよう</div> <p>・筆者が工夫していると思うところを考えながら音読する。</p>	<p>・筆者が伝えたいことを言うために事例を使って説明していることにどんな意味があるのかを考えながら読ませる。</p>
5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">筆者の考えを見つけよう</div> <p>①筆者の考えに線を引く。 ②自由交流で筆者の考えが書いてあるところを確かめる。</p>	<p>・5段落から筆者の考えが書いてあることを見つけさせる。 ・筆者の考えが書いてあるところに線を引かせる。 ・見つけたら黒板にネームプレートを張り、終わった人同士で確認したり、まだ見つけられない人のサポートをさせたりするようにさせる。</p>
3分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">筆者が考えを伝えるためにどんな例を使っているか見つけよう。</div> <p>児童の反応； 本物のイヌとロボットのイヌの例</p>	<p>・どんな例なのかを考えさせる。そうすることで、本物のイヌとロボットのイヌの生まれ方を例にしていることに気付かせる。</p>
15分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">本物のイヌとロボットのイヌの違いをどのように書いているだろう。</div> <p>・ワークシートに本物のイヌとロボットのイヌの違いについて文章から抜き出して書く。</p>	<p>・ワークシートを用意し、本物のイヌとロボットのイヌとの違いを書かせる。</p>
7分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">なぜ、本物のイヌとロボットのイヌを対比させて説明したのでしょうか。</div> <p>・グループで話し合い、対比させることの効果を考える。</p>	<p>・本物とロボットとで対比することの効果について考えさせる。 ・信憑性が増す。 ・違いをはっきりさせる。</p>
10分	<p>振り返りを書く。</p> <p>発表する。</p>	<p>●対比の効果について書いている。また、自分の意見文に生かそうとしている。</p>

6 授業公開2 (7/10)

(1) ねらい 佐渡での体験を事例に自分が伝えたいテーマに沿って書くことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	支援 (○) 留意点 (・) 評価基準 (●)
5分	<p>事例を使って本論(中)の部分を書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までに学習した工夫について振り返える。 ・自分の意見文のイメージマップをもとに何を伝えたいか、どんな事例を使うのかを確認する。 ・発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に掲示してある工夫について思い出させる。 ・何人かに発表させ、結論のための本論を書くことを意識させる。
5分	<p>事例を使って伝えたい自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を活用する。 ・イメージマップをもとに自分の考えを2～3行程度にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習したことを振り返り活用させる。 ・まず始めに事例で伝えたい自分の考えを書かせる。 ・最後の自分の結論(主張)につなげるための考えを書かせる。
20分	<p>事例を使って自分の考えを説明する文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな工夫が使えるのかを教室掲示を見て確認する。 ・どんな事例を使うかを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表させることで結論と事例の結びつきを全体に意識させる。 ・佐渡での体験活動やインタビューをしたことなどを生かして書かせる。 ・また、今までに学習してきた工夫を使って書くように指示する。 ●学習した工夫を使って書いている。
10分	<p>友達の文章を読んで良かったところを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習した工夫を使って書いているかを見つけて付箋にコメントを書いて渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習した工夫を使って書いているかを見つけることができる。
5分	<p>発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が使った工夫と友達に書いてもらったコメントを発表する。 ・今日のめあてに対して活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○工夫を使っている児童を紹介し、褒めて、自分も工夫を使うよさを再確認させる。

7 実践の様子

書くことに抵抗感があり、事象に対して自分の考えを表現できない児童の実態から本時の目指す児童の姿を「自分の主張に合う本論を書くことができる」ことに設定した。そのための手立ては、以下の通りである。

① 単元設定

相手意識と目的意識を持たせるために「自分の生き方」というテーマで主張文を書くことで、書く目的や伝える相手を意識して取り組めるように単元を設定した。

② 主張文に使うための構成と表現の工夫

事例、対比、具体的な書き方、呼び掛け、題名の工夫の4つにポイントを絞り、教材文から学び、それを自分の主張文に取り入れて書く。

(1) 公開授業1について

公開1では、教材文「生き物はつながりの中に」を使って、筆者の考えを伝えるために対比させることの効果について学習した。まず、始めに筆者の考えが書いてある文を見つけ出し、子どもたち同士でお互い見つけたところを確認し合った。そして、筆者がその考えを伝えるためにどんな例を使っているのかを気付かせ、グループで本物のイヌとロボットのイヌの違いについてまとめた。なぜ筆者は、対比させて説明したのかを考え、信憑性が増すことや違いをはっきりさせることができるなどの効果を考えることができた。授業の振り返りでは、自分が実際に書く主張文に生かしていこうという児童が多かった。

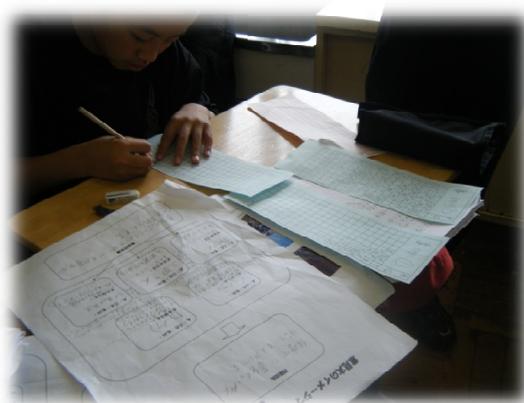
(2) 授業公開2について

公開2では、佐渡での体験を事例に自分が伝えたいテーマに沿って書く活動を行った。「生き物はつながりの中に」で学習した工夫を使って書くために、例文を提示し、児童が工夫を見つける活動を行った。その後、自分の主張文を書いた。児童の多くは、黑板にある例文やイメージマップ、修学旅行でメモをしたしおりを使って意欲的に書くことができた。

8 成果と課題

(1) 成果

- ・最終ゴールに「自分の生き方について主張文を書く」という目標を設定したことが教材文から構成や表現の工夫を学ぼうとする意欲に繋がった。
- ・総合学習と結び付けて学習したことで佐渡での感動体験を教材にした単元設定ができた。佐渡でどれだけ「人・もの・こと」と出会い、書きたくなるような感動を得たかが一番の働きかけだったように思う。その結果、イメージマップへの書き込みやしおりのメモが豊富になり、主張文を書くための大きな手立てになった。



(2) 課題

- 書く活動の前に修学旅行のしおりのメモやイメージマップの書き込みをもっと充実させることが必要だった。書く活動のときになかなか書き出せないのは、書き込みが不十分な児童に多くいた。実際に体験したことをもとにイメージマップなどで構成を考える活動を充実させることが児童の書く意欲につながる。
- 主張文等の書き方を教材文から学び、それを生かして書くようにしたが、1回の取り組みではなかなか定着には至らない。学んだ書き方の工夫を繰り返し使うことで定着を図っていきたい。

第6学年 国語科学習指導案

平成24年7月18日 5限

指導者 三浦 秀之

1 単元名 佐渡の体験を通して自分の考えを伝えよう

(「感情」「生き物はつながりの中に」 光村図書)

2 単元を通して身に付けさせたい言葉の力

○筆者の考えをとらえ、事例の効果や表現の工夫に目を向けることができる力

(「読むこと」(1)ウ)

○自分の考えが伝わるように事例や表現の工夫を使って書くことができる力

(「書くこと」(1)ア・イ・オ)

3 指導の構想

(1) 児童の実態(男子10名、女子11名 計21名)

本年度4月に行われたNRT学力テストの結果は、国語が偏差値45.3と全国平均を下回っている。全体的に、作文に限らず「書くこと」に抵抗を感じている児童が多く、主語がない文、接続語が適切に用いられていない文章、漢字を使っていない文章が目立つ。また、事象についての感想は、書くことができるが、事象に対して自分の考えを表現する面では弱さが見られる。そこで、国語の学習に限らず、どの教科でも学習の始めにめあてを立てて、最後に振り返りを書いたり、学校行事等の前には、一人一人めあてをもち、振り返りで作文を書いたりする活動を多く取り入れてきた。また、算数の学習では、自分の考えを言葉や図を使ってノートに書いたり、式の説明を文章で書かせたりする活動も行ってきた。

このような実態から、意欲的に書く活動が行えるように、佐渡の体験と関連付けて「自分の生き方」というテーマで書く活動を行う。そこで国語の学習を通して「書く内容」を明確に示し、事例の効果や表現の工夫を学び、より自分の考えが伝わるように書くことができるようにさせたい。

(2) 教材について

筆者は、自分の考えを伝えるために、構成や表現を工夫している。ここでは、「何が」「どのように」書かれているのかを読むことに加えて、その表現の工夫の「効果」を考えさせようとしている。

構成の工夫については、生き物の3つの特徴を読み取るようにしている。事例を使って特徴を説明し、まとめている一文がある。事例から自分の考える特徴へと結びつけ、読者に伝わりやすくするために考えられている。また、なぜ、本物のイヌとロボットのイヌを対比したのか、その効果に目を向けるようにしている。対比については、4年「千年の釘に挑む」「ゆるやかにつながるインターネット」をはじめ、何回か学習

しているが、ここでは、それをとらえるだけでなく、「効果」を考えさせるようにしている。

さらに、「あなたが飼っているチロ」のような具体的な書き方の効果、「本当に同じでしょうか。」のように呼び掛けるような書き方の効果に目を向けることができるようにしている。

そこで、この単元では、構成の工夫（事例・対比の効果）、具体的な書き方の効果、呼びかける書き方の効果を学び、その後の書く活動に生かしていく。書く活動では、修学旅行で行く『佐渡の体験活動』と関連付けて、自分のこれからの『生き方』をその土地で頑張っている人たちの考えと今の自分とを比較し、将来を見据えて今自分にできることは、何かを考えさせたい。そして、自分の描く「将来の自分」に近づけるように今回の活動を生かしていきたい。

（3）単元の展開

研究主題

言葉の力を高め、主体的に学ぶ子どもの育成
～物語文・説明文の授業づくりを通して～



研究仮説

次のような手立てで国語科の授業改善を行えば、児童の言葉の力が高まり、主体的に学ぶ児童を育成することができる。

- ・単元を通してどのような言葉の力を高め、どのような表現活動を行うかを明確にする。
- ・説明的文章単元において学んだ思考と表現の型を用いて、自分の思いや考えを文に表す活動を行う。
- ・文学的な文章単元においては、作者の叙述の工夫を読み取り、自分の表現に生かす活動を行う。

を受けて、本単元を次のように展開する。

①単元設定

この単元を指導するにあたり、単元のゴールとしてどのような表現活動を行うのがよいかを様々考えた。児童は、6年生になって総合の学習で佐渡のことや自分の将来のことについて今学習している最中である。そこで今回は、佐渡の体験活動を通して、「自分の生き方」について考えさせることとした。相手意識をもたせるために「他の学校の同じ6年生に佐渡で体験したことを生かして自分たちの思いを伝える」という目標を設定することで、目的意識をもって意欲的に取り組むことができるのではないかと考える。

また、相手に自分の考えが伝わるように書くための工夫がこの教材文から学べること

を児童に伝え、自分の書く意見文に生かすためにその工夫を学ぼうとする意欲につながると考える。

②意見文に使うための構成と表現の効果を学ぶ

ア 構成の工夫（事例・対比の効果）

教材文「感情」「生き物はつながりの中に」はどちらも大きく分けると 序論・本論・結論の文章構成となっている。この単元では、最終的に自分で意見文を書くことから、まず筆者の主張を見つけ出す。そして、その主張を分かりやすく伝えるためにどのように説明しているのかを考えさせる。そこで、本論には、いくつかの事例で説明していることや一つ一つの事例から筆者の考えを説明することで筆者の主張が伝わるように工夫されていることに気付かせる。また、事例の中で対比させることで、信憑性や違いをはっきりさせる効果があることにも気付かせたい。序論は、筆者の主張を説明するための問題提起であることにも気付かせていく。

この流れで読み取りの学習をすることで実際に自分が書く時にも同じ流れで考えることができ、読み取りで学習したことが活用できると考える。



イ 具体的な書き方の効果

「あなたが飼っているチロ」のように、具体的な名前を挙げて説明している。このような書き方をすることで以下の点について効果があることを学ばせる。

- ・自分に語りかけているようで話に引き込ませる効果
- ・読み手が自分のことに置き換えて考えさせる効果
- ・自分の話ととらえられる効果

ウ 呼びかける書き方の効果

「本当に同じでしょうか。」のように筆者が読者に呼び掛ける。このような書き方をすることで以下の点について効果があることを学ばせる。

- ・自分に語りかけているようで、話に引き込ませる効果
- ・呼びかけに応じようとして、考えずにはいられなくなる効果

エ 題名の工夫

「感情」「生き物はつながりの中に」の2つの題名から筆者の主張を凝縮した。「生き物はつながりの中に」は、「つながり」ということを生き物の3つの特徴から説明し、筆者の主張につなげていることに気付かせる。実際に自分の書く意見文に題名をつける時にも自分の考えが伝わる題名をつけさせるようにする。

4 単元の指導計画（全 10 時間）

次	学習活動	指導上の留意点	評価基準と評価方法
第 1 次	①「佐渡の体験を生かして自分の考えを伝えよう」という単元全体のめあてをもつ。学ぶ意欲をもつために教材文に自分の考えが伝わるように書くための工夫があることを伝える。	①単元全体のめあてを伝え、最後に「他の学校の同じ6年生に佐渡で体験したことを生かして自分たちの思いを伝える」をすることを伝える。最終の活動を伝え、学習の見通しをもたせる。	①自分の考えをまとめて「他の学校の6年生に見てもらおう」という学習の見通しをもっている。
第 2 次	②「感情」を読み、筆者の主張から文章構成を学ぶ。 ③「生き物はつながりの中に」を読み、筆者の主張から文章構成を学ぶ。 ④筆者の考えを伝えるために対比させることの効果を学ぶ。 （公開1） ⑤具体的な書き方の効果や呼びかける書き方の効果について学ぶ。	②段落分けをした後に、筆者の主張がどの段落にあるか見つけ、主張を伝えるためにどのような文章構成になっているかを考えさせる。 ③段落分けをした後に、筆者の主張がどの段落にあるか見つけ、主張を伝えるためにどのような文章構成になっているかを考えさせる。 ④対比の効果から筆者の意図を読み取らせる。 ⑤「あなたが飼っているチロ」「本当に同じでしょうか。」などの書き方から筆者の意図を読み取らせる。	②筆者の意図をとらえ、文章構成の効果を読み取っている。 筆者の文章構成の工夫から筆者の意図を読み取っている。 ③筆者の意図をとらえ、文章構成の効果を読み取っている。 筆者の文章構成の工夫から筆者の意図を読み取っている。 ④読者に与える効果について読みとっている。 ・「生き物はつながりの中に」の主題をしっかりと捉えさせるために対比を使った。 ⑤読者に与える効果について読みとっている。 ・話に引き込ませる。 ・考えずにはいられなくなる。 ・自分の話ととらえさせる。

第 3 次	<p>⑥「自分の生き方」のテーマで書くイメージマップを作る。</p> <p>⑦結論（自分の主張）を書く。</p> <p>⑧佐渡での体験を事例に本論を書く。（公開2）</p> <p>⑨結論のための序論（問題提起）を書く。</p> <p>⑩推敲する。</p>	<p>⑥イメージマップをもとに文章の構成を考えさせる。</p> <p>⑦対比・呼びかけの工夫を意識して自分のテーマに沿った主張を書かせる。</p> <p>⑧佐渡で体験したことやインタビューして得たことを事例に自分が伝えたいことと結び付けて書かせる。</p> <p>⑨結論に結び付けるための問題提起を書かせる。（序論）</p> <p>⑩自由交流でお互いの意見文を読み合い、誤字脱字や学んだことを生かしているところを見つけ伝える。</p>	<p>⑥イメージマップをつくることができる。</p> <p>⑦自分の伝えたいことを書くことができる。</p> <p>⑧自分が伝えたいことを事例を用いて書いている。</p> <p>⑨自分が伝えたいことの話にもっていくための問題提起を書いている。</p> <p>⑩友達の意見文を読んでアドバイスや良いところを見つけられる。</p>
-------------	---	---	---

【評価】

- ・（評価4）教材文から学んだ工夫を生かして、自分の力で文章を書いた。
- ・（評価3）教材文から学んだ工夫を生かして、友達や教師にアドバイスをもらいながら文章を書いた。
- ・（評価2）教材文から学んだ工夫を生かして、ワークシートを使いながら文章を書いた。
- ・（評価1）教材文から学んだ工夫を使わずに文章を書いた。

5 授業公開1 (4/10)

(1) ねらい 筆者の考えを伝えるために対比させることの効果を理解することができる。

(2) 展開

時間	学習活動	支援 (○) 留意点 (・) 評価基準 (●)
5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">事例の中の工夫を見つけよう</div> <p>・筆者が工夫していると思うところを考えながら音読する。</p>	<p>・筆者が伝えたいことを言うために事例を使って説明していることにどんな意味があるのかを考えながら読ませる。</p>
5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">筆者の考えを見つけよう</div> <p>①筆者の考えに線を引く。 ②自由交流で筆者の考えが書いてあるところを確かめる。</p>	<p>・5段落から筆者の考えが書いてあることを見つけさせる。 ・筆者の考えが書いてあるところに線を引かせる。 ・見つけたら黒板にネームプレートを張り、終わった人同士で確認したり、まだ見つけられない人のサポートをさせたりするようにさせる。</p>
3分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">筆者が考えを伝えるためにどんな例を使っているか見つけよう。</div> <p>児童の反応； 本物のイヌとロボットのイヌの例</p>	<p>・どんな例なのかを考えさせる。そうすることで、本物のイヌとロボットのイヌの生まれ方を例にしていることに気付かせる。</p>
15分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">本物のイヌとロボットのイヌの違いをどのように書いているだろう。</div> <p>・ワークシートに本物のイヌとロボットのイヌの違いについて文章から抜き出して書く。</p>	<p>・ワークシートを用意し、本物のイヌとロボットのイヌとの違いを書かせる。</p>
7分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">なぜ、本物のイヌとロボットのイヌを対比させて説明したのでしょうか。</div> <p>・グループで話し合い、対比させることの効果を考える。</p>	<p>・本物とロボットとで対比することの効果について考えさせる。 ・信憑性が増す。 ・違いをはっきりさせる。</p>
10分	<p>振り返りを書く。 発表する。</p>	<p>●対比の効果について書いている。また、自分の意見文に生かそうとしている。</p>

6 授業公開2 (7/10)

(1) ねらい 佐渡での体験を事例に自分が伝えたいテーマに沿って書くことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	支援 (○) 留意点 (・) 評価基準 (●)
5分	<p>事例を使って本論(中)の部分を書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までに学習した工夫について振り返える。 ・自分の意見文のイメージマップをもとに何を伝えたいか、どんな事例を使うのかを確認する。 ・発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に掲示してある工夫について思い出させる。 ・何人かに発表させ、結論のための本論を書くことを意識させる。
5分	<p>事例を使って伝えたい自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を活用する。 ・イメージマップをもとに自分の考えを2～3行程度にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習したことを振り返り活用させる。 ・まず始めに事例で伝えたい自分の考えを書かせる。 ・最後の自分の結論(主張)につなげるための考えを書かせる。
20分	<p>事例を使って自分の考えを説明する文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな工夫が使えるのかを教室掲示を見て確認する。 ・どんな事例を使うかを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表させることで結論と事例の結びつきを全体に意識させる。 ・佐渡での体験活動やインタビューをしたことなどを生かして書かせる。 ・また、今までに学習してきた工夫を使って書くように指示する。 ●学習した工夫を使って書いている。
10分	<p>友達の文章を読んで良かったところを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習した工夫を使って書いているかを見つけて付箋にコメントを書いて渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習した工夫を使って書いているかを見つけることができる。
5分	<p>発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が使った工夫と友達に書いてもらったコメントを発表する。 ・今日のめあてに対して活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○工夫を使っている児童を紹介し、褒めて、自分も工夫を使うよさを再確認させる。

7 実践の様子

書くことに抵抗感があり、事象に対して自分の考えを表現できない児童の実態から本時の目指す児童の姿を「自分の主張に合う本論を書くことができる」ことに設定した。そのための手立ては、以下の通りである。

① 単元設定

相手意識と目的意識を持たせるために「自分の生き方」というテーマで主張文を書くことで、書く目的や伝える相手を意識して取り組めるように単元を設定した。

② 主張文に使うための構成と表現の工夫

事例、対比、具体的な書き方、呼び掛け、題名の工夫の4つにポイントを絞り、教材文から学び、それを自分の主張文に取り入れて書く。

(1) 公開授業1について

公開1では、教材文「生き物はつながりの中に」を使って、筆者の考えを伝えるために対比させることの効果について学習した。まず、始めに筆者の考えが書いてある文を見つけ出し、子どもたち同士でお互い見つけたところを確認し合った。そして、筆者がその考えを伝えるためにどんな例を使っているのかを気付かせ、グループで本物のイヌとロボットのイヌの違いについてまとめた。なぜ筆者は、対比させて説明したのかを考え、信憑性が増すことや違いをはっきりさせることができるなどの効果を考えることができた。授業の振り返りでは、自分が実際に書く主張文に生かしていこうという児童が多かった。

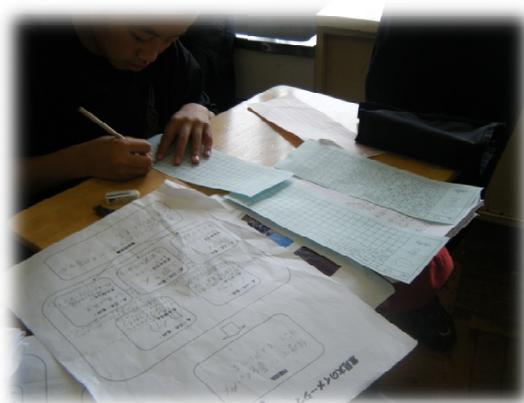
(2) 授業公開2について

公開2では、佐渡での体験を事例に自分が伝えたいテーマに沿って書く活動を行った。「生き物はつながりの中に」で学習した工夫を使って書くために、例文を提示し、児童が工夫を見つける活動を行った。その後、自分の主張文を書いた。児童の多くは、黑板にある例文やイメージマップ、修学旅行でメモをしたしおりを使って意欲的に書くことができた。

8 成果と課題

(1) 成果

- ・最終ゴールに「自分の生き方について主張文を書く」という目標を設定したことが教材文から構成や表現の工夫を学ぼうとする意欲に繋がった。
- ・総合学習と結び付けて学習したことで佐渡での感動体験を教材にした単元設定ができた。佐渡でどれだけ「人・もの・こと」と出会い、書きたくなるような感動を得たかが一番の働きかけだったように思う。その結果、イメージマップへの書き込みやしおりのメモが豊富になり、主張文を書くための大きな手立てになった。



(2) 課題

- 書く活動の前に修学旅行のしおりのメモやイメージマップの書き込みをもっと充実させることが必要だった。書く活動のときになかなか書き出せないのは、書き込みが不十分な児童に多くいた。実際に体験したことをもとにイメージマップなどで構成を考える活動を充実させることが児童の書く意欲につながる。
- 主張文等の書き方を教材文から学び、それを生かして書くようにしたが、1回の取り組みではなかなか定着には至らない。学んだ書き方の工夫を繰り返し使うことで定着を図っていきたい。

特別支援学級 1 組 国語科学習指導案

平成 25 年 1 月 24 日 (木) 5 限

指導者 教諭 後藤 幸子

支援員 介助員 平出 尊子

1 単元名 「虫の本をつくろう」 (「みいつけた」光村図書 1 年上)

2 単元を通して身につけさせたい言葉の力

○何がどこにいるか、その生き物の特徴やどうすると見つけられるかを読み取ることができる力
(読むこと (1) イ) <A, B, C 男>

○必要な事柄を選び取り、語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くことができる力 (書くこと (1) ウ) <B 男>

3 指導の構想

(1) 児童の実態 (国語の学習に関わって)

1 年男児 2 名、2 年男児 1 名が学習している。学年の時間割によって、3 人で一緒に学習をする時と学年別に行う時がある。3 人で学習を進める場合は、かかわり合いや表現を主にした学習を行っている。個々の発達段階・学習到達度等を考慮し、1 年生の教科書を使用している。使用している教科書は同じであるが、個別の指導計画に合わせた個々の目標を設定し、学習をすすめている。

1 年 A 男

ひらがなの読み書きはほぼできる。音読は一文字ずつ拾い読みをするような感じでたどたどしく、内容の理解も難しい。しかし、繰り返し音読することにより、文章を覚えてスムーズに読めるようになっている。内容に関しては、動作化や絵などでイメージをもちやすくすることで理解の助けになることが多い。毎時間の始めに行っている「スピーチ」が好きで意欲的に取り組む。話し方も 4 月の頃に比べて、要点を絞った話し方ができるようになってきている。

1 年 B 男

学習に意欲的に取り組む。1 年生の学習内容をほぼ理解し、読み書きもスムーズである。文を書く際、助詞の使い方に誤りがあることが多い。日々のスピーチや文を書く機会をとらえながら、正しく使えるように学習中である。

2 年 C 男

ひらがなの読みはほぼできるようになった。文字を書くことに強い抵抗はないが、文字の形をうまくとれなかったり、筆順がおぼえられなかったりするなどのことから、書く活動が続く

と集中力・学習への意欲が途切れる。音読はたどたどしく、読み間違いもあるが毎時間繰り返して読むことにより、スムーズに読めるようになってきている。「わ・は」「え・へ」なども正しく読めるようになってきた。促音や拗音の読み方を学習中である。内容の理解は比較的スムーズで、読み終わった後に内容を問うとほぼ理解している。日によって気分の波があり、その日の本人の状態を把握しながら学習内容に変化をもたせて進めている。

(2) 教材について

本教材「みいつけた」は、ダンゴ虫やセミ、バッタなど児童にとって身近な生き物を取り扱った説明文である。「どうしたらみつけることができるのでしょうか」という問いに対し、3種類の虫についての答えが並記された構成であり、事柄の順序が分かりやすく説明されている。『どこにいるか』『どんな特徴のある虫か』『どうすると見つけられるか』がどの虫についても書かれてあり理解しやすいのではないかとと思われる。また、本教材の学習の後に、児童が自分の好きな生き物や興味のある生き物について、教材文と同じ文型を使って表現する学習活動を設定する。この活動を通して文を正しく書く経験を重ねるとともに、学んだ事柄が「本」という形になることで達成感や成就感を味わわせたいと考える。

(3) 単元の展開

研究主題

言葉の力を高め、主体的に学ぶ子どもの育成
～物語文・説明文の授業づくりを通して～



研究仮説

次のような手立てで国語科の授業改善を行えば、児童の言葉の力が高まり、主体的に学ぶ児童を育成することができる。

- ・ 単元を通してどのような言葉の力を高め、どのような表現活動を行うかを明確にする。
- ・ 説明的文章単元において学んだ思考と表現の型を用いて、自分の思いや考えを文に表す活動を行う。
- ・ 文学的な文章単元においては、作者の叙述の工夫を読み取り、自分の表現に生かす活動を行う。

低学年：目的意識をもって教材から学び、自分の思いや考えなどを表現することができる。

を受けて、本単元を次のように展開する。

◎単元設定

単元のゴールとなる表現活動を「虫の本をつくろう」とし、自分だけの虫の本を作ることとする。

児童は「じどうしゃくらべ」（光村図書1年下）の学習で交流学年と一緒に【じどうしゃずかん】を作る学習を行った。図鑑の最後のページには自分の書きたい車についての文を書き、絵や写真で車を描いた。車に興味や関心があったことから非常に意欲的に学習に取り組んだ。作製した図鑑は家に持ち帰り、今でも大切に見ているそうである。これらのことから、本単元の「虫の本づくり」でも意欲的に取り組めるのではないかと考えた。また、2年C男は、虫への興味・関心が高く、知識も豊富なことから学習をリードしていってくれることを期待したい。

◎教材文の内容を正しく読み取らせるための手立て

ア 正しく読む

範読を聞いたり、文字や言葉を読み間違いなく正しく読んだりする学習を通して、文字通り正しく読む練習をする。文節ごとに区切ったカードを提示して言葉のまとまりで読む練習を行うことで飽きずに繰り返し学習できると考える。

イ 内容を読み取る

教材文に何が書いてあるのかを、挿絵や絵（具体物）を手掛かりに読み取る。文に書かれてある通りにその具体物（石や落ち葉の絵など）を操作することで、視覚化し、理解を助ける。

ウ <三つの観点>を意識させる

教科書の本文を拡大コピーしたものを提示し、それぞれの虫について【どこにいるか】【どんな特徴があるか】【どうすると見つけられるか】の<三つの観点>それぞれを色分けする。また、<観点>がその順序で出てくることにより読む人にも分かりやすいという良い点に気付かせる。自分で書く際にもその観点が必要であることを知ることができるようにする。

◎「虫の本」作製のために各ページを書くための手立て

エ ワークシートを使用する

個々の発達段階に応じたワークシートを用意し、1ページに一匹ずつ記入できるようにする。教材文に書かれている虫については、教科書を見ながら視写する。書く量は個々の実態に応じて調節する。

オ 自分の好きな虫について調べる

自分の書きたい・本に載せたい・自分の好きな虫について調べる活動を取り入れる。教師の方で児童の興味のあるような身近な虫をあらかじめ数匹絞り込んでおき、その中から選択できるようにする。そうすることで、自分ではなかなか決められない児童も自分で決めることができるだろうと考える。（自己選択・自己決定の場）また、その生態についてもカードに記入して準備しておく。「虫」とその「特徴」を3人で知っていることを出し合い、意見を交換しな

がらマッチングする活動を取り入れる。本は個々の物であるが、関わり合いの場面をもつことで、「みんなで本を作る」という意識をもたせたい。

4 単元の指導計画（全7時間）※授業公開 6/7

次	時間	学習活動	指導上の留意点	☆評価基準・★評価方法
第1次	①	「みいつけた」を音読し、自分の好きな虫や、虫について知っていることを発表し合う。自分たちの知っている虫について『本を作る』というゴールを示し、そのための学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・範読を聞き、文字や言葉を正しく読む。 ・「じどうしゃくらべ」の学習を想起させ、今回は「虫の本を作ろう」という意欲付けを図る。 	<p>☆文字や言葉をていねいに読もうとしている。 (★観察)</p> <p>☆本づくりに関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 (★観察・発言)</p>
第2次		「みいつけた」を読み、【どこにいるか】【どんな特徴があるか】【どうするとみつけられるか】<三つの観点>を理解する。		
	②	音読。『だんごむし』について<三つの観点>にそって理解する。 ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・虫の「名前」「どこにいるか」「特徴」「どうすると見つけられるか」を問いかげながら読み進め、確認する。 	<p>☆虫の特徴等を<三つの観点>に沿って理解している。 (★発言・観察)</p>
	③	音読。『せみ』について理解する。(三つの観点)ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する際にも三つの観点に沿って確認しながら記入できるように支援する。 	<p>☆虫の特徴等を教材文と同じ順序で書くことができる。 (★ワークシート・観察)</p>
	④	音読。『ばった』について理解する。(三つの観点)ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの虫について同じパターンで学習を進め、見通しがもちやすいようにする。 	

第 3 次	⑤	自分の好きな虫や書きたい虫について考える。その虫について知っていることや知りたいことを図鑑や本で調べ、発表し合う。どの虫について書くか決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの活動を振り返り、自分の書きたい虫についてのイメージが持てるようにする。 ・①で挙げられた虫についてあらかじめ資料を用意しておき選択できるようにする。 	<p>☆本作りへの意欲を持ち、好きな虫について積極的に発言している。</p> <p>☆どの虫について書くのか自分で決めることができる。</p> <p>(★観察・発言)</p>
	⑥	自分の書く『虫』について三つの観点に合ったカードを選択しマッチングしたり、何を書くか自分で考えたりする。ワークシートに記入する。 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて使用できるようにそれぞれの虫についての【どこにいるか】【どんな特徴があるか】【どうすると見つけられるか】の事柄をカードに記入して用意する。 	<p>☆〈三つの観点〉に合った内容の事柄を自分で、または選択したカードをもとにワークシートに記入することができる。</p> <p>(★観察・ワークシート)</p>
	⑦	「虫の本」を完成させ、互いに紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに良く書けているところを紹介し合い、達成感をもてるようにする。 	<p>☆自分の書いたものをはっきりと読み上げることができる。</p> <p>(★観察・発言)</p>

5 本時の指導 (6/7)

(1) ねらい

B男 ○自分の書きたい虫について、〈三つの観点〉の順序・内容に応じた文章を自分で考え、ワークシートに書くことができる。

A男・C男 ○自分の書きたい虫について、〈三つの観点〉に合った内容のカードを選択（A男は1つ以上、C男は2つ以上）し、支援を受けながら順序よくワークシートに記入することができる。

3人で行う国語の学習は、個々の実態や授業者の「様々な学習活動を通して意欲的に学んで欲しい」という願いから「学習活動の見通しを持つこと」「1時間の学習の中に短時間の課題（話す・読む・聞く・書く活動）を組み入れ、集中力を持続させること」を念頭に学習活動を組み立てている。

本時も主な活動は「自分の書きたい虫について書く」であるが、通常通りのパターン化した学習を行う。

(2) 展開

時間	学習活動	支援 (○) 留意点 (・) 評価基準 (●)
1分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習活動について見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ声や姿勢など良いところをほめ、学習活動にスムーズに入れるように配慮する。
4分	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ (声の大きさ、話す・聞く姿勢、拍手、あいさつ を身に付ける) 	<ul style="list-style-type: none"> ○助詞の使い方が違う、うまく話せないなどの時は最後までしっかり話せるように支援する。
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き方・姿勢など良いところをほめる。
3分	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・飽きずに取り組めるように速さを考えてカードをめくる。
2分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題について確認する。 「虫の本をつくろう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習のがんばりを想起させ、本時の学習に意欲をもって取り組めるように言葉をかける。
4分	<ul style="list-style-type: none"> ・「みいつけた」を音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○A男、C男に支援に入り、どこを読んでいるのか指で示す。
4分	<ul style="list-style-type: none"> ・ペープサートを操作しながら教材文の内容を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「虫」ごとに挙手で希望を募り、児童がペープサートの操作を行う。 ○うまく操作できないときは、早めに支援に入る。(情緒の安定のため)
3分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の書きたい虫について確認し、本時はどのような学習を行うのかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での指示が通りにくい児童には、個別に確認する。
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の「書きたい虫」について、<三つの観点>に沿った生き物の特徴等を考えたり、選択したりする。 ・互いに発表し合い、<三つの観点>に合っているか確認し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○A男、C男に支援に入る。活動が停滞しないように配慮する。 ●<三つの観点>に合った内容のカードを <u>[A男は1つ以上、C男は2つ以上]選択することができた。または、自分で考えることができた。[B男]</u>
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>書く事柄の順序を考えて書いている。[B男]</u>
4分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の振り返り 今日の学習でがんばったこと、感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○『振り返りの言葉カード』を必要に応じて使用する。時間があれば、今日書いたものを紹介し合う。

6 実践の様子

前時までに、観点ごとに色分けされたカードに「自分の書きたい虫」について記入を終えて本時に入った。＜三つの観点＞の順に沿ってカードを並べ変える作業を行った。並べ変える際、考えの助けになるように教材文を学ぶ段階から観点毎に色分けをして学習を行ってきたが、どの児童も色をヒントにしなくても、



観点に応じたカードを選択している

書かれている内容で並べ変えができていた。



B男は、たくさんのカードの中から、必要なものと不必要なものを自分で選別することができた。『ペットボトルを使うと捕まえやすい』と書かれたカードは、「これは捕まえ方だからちがう」と除くことができていた。＜三つの観点＞を理解し、学習できていたと考える。

正しく並べ変えができたカードをもとに、全員がワークシートに記入することができた。

実践の成果と課題

(1) 実践を通しての成果

「虫の本をつくろう」という単元のゴールを示し、学習活動に取り組んだことは児童の意欲の向上・持続に有効に働いた。また、身近な虫を題材とした「みつけた」は、児童にとっても親しみやすく、内容も比較的わかりやすい教材であった。しかし、教材文に書かれてあることが文字だけではイメージしにくい部分もあり、視覚化し、教材文に書かれてある通りにペープサートを動かしたり、拡大された掛図を操作したりする活動は内容の理解を助けるのに有効であった。

＜三つの観点＞を児童に明確に示し、観点に応じた内容をカードに書く作業は、ある児童にとっては難しい課題ではあったが、個々に応じた支援を受けて意欲的に取り組むことができた。また、カードを観点に沿って並べる作業は、カードに書かれている内容をもとに自力で解決できていたことから、教材文の理解、カードに書かれている内容の理解がしっかりできていたのではないかと考える。

『本』という目に見える形（作品）になったことで達成感を感じることができ、児童の学習に対する自己評価も高く、次への学習につながる活動となった。

(2) 今後の課題

それぞれが書きたい虫について調べ、支援を受けながら＜三つの観点＞に基づいて書くことができた。しかし、教材文では、＜三つの観点＞「②特徴」につながる「③見つけ方」が

書かれてあるが、児童の書きたい虫で実際に書くのは実態からみても難しかった。児童が理解している虫の生態と調べた事柄が合致しない面があったからである。納得し、理解して文章を書いてほしいという願いから、単元の途中ではあったが、②と③がつながらなくても、観点に応じた文が書けていれば良しとすることにした。

本単元では教材文に沿った形で<三つの観点>の①から書き始めたが、「③どうやったら見つけられるか」から書くなど、書く順序を変えながら書き進めていくと ③につながる②（特徴）が書きやすくなるかもしれないなど、指導者が教材を解釈し、どのように指導することが児童にとって効果的であるかをきちんと考えて臨むことが大切だと感じた。

実践を通して得られた成果と課題を生かし、今後の研修につなげていきたい。

特別支援2組 国語科学習指導案

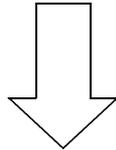
平成24年12月12日 2限

指導者 長谷川 庸

1. 単元名 自作の幻灯を映写し、音読しよう(教材名:やまなし<光村図書>)

2. 単元を通して身につけさせたい言葉の力

*学校教育法施行規則 第138条、第140条、第141条・・・**特別の教育課程**



.....6年2名の児童の実態から

小学校学習指導要領解説 国語編 中学年の目標と内容

○内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する力

(C読むこと (2)内容①指導事項 ア)

○文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く力(C読むこと (2)内容①指導事項 オ)

3. 指導の構想

(1)児童の実態(6年男子2名)

2名ともに障がいの特性から、課題に集中して取り組むことが少なく、飽きやすく粘り強く取り組めない、滑舌がよくないなどの困難さを抱えている。しかし、ものを作るなど作業的な活動には意欲を示す。

(2)教材について

「やまなし」は宮沢賢治の短編童話。1923年4月8日付の岩手毎日新聞(1933年廃刊)の掲載された。賢治の数少ない生前発表童話の一つであり、「雪渡り」について発表された。発表に先立って執筆されたとみられる下書きの草稿が現存している。

谷川の情景を「二枚の青い幻灯」と称し、谷川の底の蟹の兄弟が見る生き物たちの世界を描いたもので、晩春の5月の日中と初冬の12月の月夜の二部で構成されている。5月にはカワセミによる魚の殺生が行われ、12月には蟹の兄弟も成長し、ヤマナシ(イワテヤマナシもしくはコリンゴ;バラ科ナシ属の落葉高木)の実りが訪れる。

なお、本来ヤマナシは春の5月頃に開花し、秋の10月頃に成熟するものであり、また後半を「11月」とする草稿も存在するため、新聞紙面の「12月」は誤植であるとも考えられている。

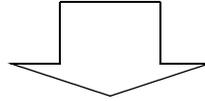
本教材は、小学6年の国語教科書に広く採用されてきており、児童は様々な言葉に興味を感じて、宮沢賢治の世界に引き込まれていくと考えられる。また資料「イーハトーブの夢」と併読すると賢治の生い立ちや時代背景を想像し、現在の自分たちの生活や時代を見直す機会にもつながると考える。さらに幻灯(幻灯機)を作るという活動も取り入れることで、児童の学習意欲の持続も可能になると考える。

(『校本 宮澤賢治全集第9巻、第11巻』(筑摩書房)、フリー百科事典『ウィキペディア』)

(3)単元の展開

研究主題

言葉の力を高め、主体的に学ぶ子どもの育成
～物語文・説明文の授業づくりを通して～



研究仮説

次のような手立てで国語科の授業改善を行えば、児童の言葉の力が高まり、主体的に学ぶ児童を育成することができる。

- ・単元を通してどのような言葉の力を高め、どのような表現活動を行うのかを明確にする。
- ・説明的文章単元において学んだ思考と表現の型を用いて、自分の思いや考えを文に表す活動を行う。
- ・文学的文章単元においては、作者の叙述の工夫を読み取り、自分の表現に生かす活動を行う。

を受けて、本単元を次のように展開する。

単元の最終目標として2名の児童が、自作の幻灯(スライド)を投影しながら音読することを目指す。

そのために、まず宮沢賢治の生い立ちや生きた時代背景をおさえる。さらに「やまなし」の定型的な音読練習を繰り返す。

最後に、2名の幻灯を映写・音読する会を設け自分たちの学びを発信する。

そこではユニバーサルデザインにもとづく学習展開(参考「国語授業のユニバーサルデザイン 桂聖著 東洋館出版社)を目指す。

①焦点化

音読、幻灯操作の要点を確認し、各児童が自分の役割を意識する。

教科書に<、>、|、・などの記号を付け間を開ける、間を開けない、ゆっくり読む、速く読む、強く読むを意識する。

自分がお気に入りの場面を3～4枚の絵で表し、その理由を言えるようにするとともに、幻灯切り替えの意識をする。

②視覚化(感覚化)

各児童がお気に入りの場面を絵画表現したものを、教師が幻灯にし、当時の幻灯機方式や現在の投影機で映し出す。

③共有化

各児童が音読会で得た感想や助言を、さらなる向上につなげる。

同じ学級の特別支援の3年生に見聞してもらったり、他の人々に披露したりした際に、簡単な感想等をもらい、自分の学習の振り返りに生かす。

4. 単元の指導過程(全13時間)

次	過程	学習活動	指導上の留意点	評価基準☆と評価方法()
第1次 2時間	見通しをもつ。 (2h)	① 新出漢字、難しい言葉の確かめをする。 ② 現在の音読の力を知り、今後のめあてを立てる。	○漢字学習は学習探検ナビの活用 ○ しっかり聞く よく聞き合う 聞ける耳 (参考 「続・音読の授業」伊藤経子著 国土社)を確認する。	☆スクリーンを見て筆順や読みを考えたり、空書したり、復唱したりできたか。 (教師の見取り) ☆自分なりのめあてを立てることができたか。(音読カード)
第2次 2時間	教材の作者について知る。 (2h)	③④「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生涯・時代について知る。	○社会の歴史学習と関連づけて宮沢賢治の時代の様子を写真や映像で示す。	☆賢治の時代と現在の違いを見つけようとしたか。 (振り返り、教師の見取り)
第3次 9時間	教材を読み込む。 (5h) 教材を他学級等(学年)に向けて音読する。 (2h) (2h)	⑤～⑨「漢字の読みを間違えないで読む」「大きな声ですらすら読む」を・・・ (5月、12月を日替わりで) ⑩⑪二人で協力して幻灯の映写と音読をする 【⑪本時・公開】 ⑫⑬自分用の幻灯機を作成し一人二役で音読をする。	○教科書に記号を付ける ①間ありくのしるし ; < が << と増えていくと間の長さが長くなる ②間なし; 半調 〰 で読点があっても間を開けないで続けて読む ③強調; 傍点・を打って語句を強調して読む ④テンポ; 速くー ゆっくり… (参考 「音読朗読群読の授業づくり」上條晴夫・編著 学事出版) ○音読カード ○「アーワン」ウオーミングアップ ○あくまで自分用の幻灯機は、家庭で音読をするときの小道具であることを指導し、個別懇談時に保護者に渡すことを伝える。	☆めあてに向かって音読しようとしていたか。 (教科書の書き込み、音読カード、教師の見取り) ☆役割分担を意識し音読したり、幻灯(スライド)の切り替えができたか。 (音読カード、振り返り、教師の見取り) ☆効果的に音読するためという意識を持って道具作りを行ったか。 (振り返り)

6. 授業公開2(全体公開授業 11/13時間)

(1)ねらい

これまでの学習を生かし、自分の役割を果たして音読映写会をすることができる。

(2)本時にかかわる児童の実態と目指す姿

児童	実 態	◎目指す姿 ●個別支援 ☆評価基準
A児	<ul style="list-style-type: none"> 文章はことばのまとまりで読めるが、内容の捉えは難しい。漢字の読み間違いが多い。 言葉や文章での表現は苦手で、身振りや単語の表現が多い。 	◎自分の役割分担を自発的に行い、漢字の読み間違いをしないで「やまなし 12月」を読むことができる。 ●音読の注意点の確認。パソコンに取り込んだ画像の準備。 ☆最初の頃の音読より向上することを意識し、音読できたか。(音読カード・教師の見取り)
B児	<ul style="list-style-type: none"> 気が散りやすく課題に集中して取り組むことが難しい。 文章は言葉のまとまりで読むことができる。読みとりもほぼ正確にできるが、ときどき粗暴な言動をすることがある。 	◎自分の役割分担を自発的に行い、声量を保ってすらすらと「やまなし 12月」を読むことができる。 ●賞賛の言葉かけ。 ☆始業から終業まで落ち着いて学習活動に取り組む自己肯定感を持つことができたか。(音読カード・教師の見取り)

(3)本時の構想

ユニバーサルデザインによる授業づくりから

- ①焦点化・・・初読の頃の音読録音を聞かせ、それをもとに自分の音読レベルを上げようという意欲を持つ。
- ②視覚化・・・「やまなし」について自分が感じたことを幻灯の映写によって視覚化し、自作の幻灯についての説明する活動によって言語表現の補完につなぐ。
- ③共有化・・・終末の振り返りによって、お互いの音読会での感想を共有する。

(4)展開

時間	学 習 活 動	支援(○)留意点(・)と評価基準(●)
	1 本時のめあてをノートに書く。	
5	◎ 幻灯を映しながら「やまなし」の音読を聞いていただきましょう。	
5	2 「アーワン」ウオーミングアップをする。	○「アーワン ウオーミングアップ カード」
10	3 最初の頃の自分たちの音読を聞く。	・ICレコーダーの録音再生。
14	4 本時の自分の音読の注意点を確かめ発表する。	○音読の要点記号の復唱をし、2～3ヶ所具体的に確かめ。
20	5 音読の要点記号に気を付け、各自音読練習	
25	6 A児音読の準備をし、音読を始める。(B児は幻灯の準備)	・音読のめあての確認。 ・昔方式の投影機、現在の投影機準備。話形の掲示。
30	7 A児は音読終了後、自分の幻灯の原	●教師の指示を受け速やかに準備

35	画を示し説明をする。 付箋を配り参観者から感想を求める。	し、「月光」を「つきあかり」などと間違えず読めたか。幻灯の説明を理由付けて言えたか。
	8 B児音読の準備をし、音読を始める。 (A児は幻灯の準備)	・音読のめあての確認。 ●教師の指示を受け速やかに準備し、つかえることなく読めたか。幻灯の説明を理由付けて言えたか。
	9 B児は音読終了後、自分の幻灯の原画を示し説明をする。 付箋を配り参観者から感想を求める。	
40	10 ノートに振り返りを書く。	○振り返りを書くのに手間取っている場合は、教師が話形などを声かけ。
42	11 振り返りの発表をする。	・賞賛の言葉かけ。

実践の様子

児童に成就感を持たせるためにユニバーサルデザインの考えにもとづいての学習を展開した。

①焦点化＝児童の役割分担を意識させ、音読をする人、プロジェクターを操作しタイミング良く場面を切りかえる人と役割を明確にし、自主的に動くようにして学習させた。



②視覚化(感覚化)＝最初のころの音読をICレコーダーで再生し、音量、区切り、間などでの進歩を際立たせた。また前時までに作者の時代の幻灯を、それに近い物を実際に作らせ体感させた。

③共有化＝参観者からの感想や助言を付箋にメモとして書いていただき、自己の向上した姿や今後に向けての姿を考えさせた。その結果終末の振り返りで児童は、予想以上に集中して取組みふだんの4～5倍の量をノートにまとめた。



実践の成果と課題

○児童の五官を活用した具体物操作は、活動意欲の向上や維持に効果的であった。事後の「海の命」では児童から「先生また気に入った場面を幻灯にしたい」と訴えてきた。また、平日頃から児童の実態把握に努め、観察、見取りをしてきて、滑舌の改善や集中力の向上にめあてを絞った。簡単なめあてが実態に即していた。さらに、宮澤賢治全集で「やまなし」の原典について調べたり、「こどもの城」さんに手作り幻灯の作り方でご協力いただいたりしたことが、指導に反映できた。今後も教材研究・開発に努めたい。

●行動療法的な「ご褒美がないと何もしない、できない」ではなく、より高次の活動を自然にできるようにするために、ユニバーサルデザインにもとづく授業づくりについて、焦点化、視覚化、共有化についてもっと深く研鑽をしなくてはならない。例えば、音読レベルウオーミングアップ等をゲームの要素を取り入れ楽しいものに工夫したり、児童同士の関わり合いの中や大勢の前での発表の場の設定をしたりしたい。

最後に、今回の研修で特別支援について試行錯誤する機会をいただいたことに感謝し、来るべきインクルーシブ教育(包容する教育)に向けて、刻々と変化する児童の実態に柔軟に対応しよりよい指導を目指すことを誓ってまとめに代える。